

多様なインターンシップを目指して

宇都宮大学 理事・副学長

夏 秋 知 英

現代の多様で複雑化する社会に対して理解を深めながら自らのキャリアを考え、将来に向けて行動するためには、さまざまな体験を通して複眼的な知識や視点を身に付けることが大切になってきています。このためには、学生時代にインターンシップを体験し、その経験を通して自分の適性や将来への希望、そして社会の中での自らの位置、などを考えていく必要があります。

宇都宮大学では、平成 25 年度にそれぞれの学部において学ぶ専門教育だけでなく、更に多様な他の領域の知識や能力を身に付けることができる“Learning+ 1”を開講しました。自主的かつ意欲的に学ぶ領域を拓げ深めることによって、行動的知性としての「人間力」を高め将来の可能性を広げることをサポートするものです。3C精神、すなわち意欲的に変革（Change）に挑戦し（Challenge）、自らの可能性を拓げ、広く社会の発展に貢献（Contribution）が育まれることを期待しています。

一方、世界はどんどん狭くなり、物理的に移動しなくてもインターネットを通してグローバルな情報を受け取れるようになりました。このような情報社会の中で“Learning+ 1”の「グローバル人材育成プログラム」は、単に英語ができるだけでは通用しない国際社会において、産業界や地域社会等のニーズに対応し、専門知識に加えて異文化社会及びグローバル化する社会への知識を深め、国際的な実践力を身に付けることを目的としています。このプログラムのフィールド実践科目の一つとして、「国際インターンシップ」を平成 24 年度にスタートさせました。「国際インターンシップ」では、海外の企業等で実務的・実践的な体験をすることを通じて、グローバル化に対応したチャレンジ精神の涵養、異文化圏での課題解決能力や専門知識の汎用性の向上、など多様な効果を狙いとしています。さらに、企業等との連携においては、単なる派遣と受入れだけでなく協働して本取組の充実を図る観点から、事前指導や事後指導等の充実を図ります。

最後に、「国際インターンシップ」にご協力いただきました企業や関連機関等の皆様に深く感謝申し上げます。今後も、より良きプログラムとして持続的に発展させてゆきたいと考えております。

- 目 次 -

I 実施報告

平成 28 年度春期

黒坂 明善	工学部	建設学科	2年	9
宮内 幸弥	工学部	建設学科	2年	11
菅 里咲子	国際学部	国際文化学科	2年	13
清野ひかる	国際学部	国際社会学科	2年	16
和田 希歩	国際学部	国際社会学科	2年	18
飯塚 瞳	国際学部	国際社会学科	4年	20
小林 凌大	国際学部	国際社会学科	2年	22

平成 29 年度夏期

千葉 仁平	農学部	森林科学科	2年	25
宮北 祥平	工学部	電気電子工学科	2年	27
門上 友紀	国際学部	国際社会学科	3年	29
藤田萌々夏	国際学部	国際社会学科	3年	32
須田 愛	国際学部	国際社会学科	3年	34
太田川実沙	国際学部	国際文化学科	3年	37
小野寺未早	国際学部	国際文化学科	3年	40
椎名 史織	国際学部	国際社会学科	3年	43
森下 楓	国際学部	国際文化学科	3年	46
吉川みゆき	国際学部	国際社会学科	3年	48
澤口 巧太	工学研究科	物質環境化学専攻	1年	50
助川 雄太	工学研究科	物質環境化学専攻	1年	52
谷 有美子	農学部	農業環境工学科	3年	56
鎌田 達磨	教育学部	学校教育教員養成課程	1年	59

平成 29 年度春期

井沢 賢人	工学部	応用化学科	4年	63
小川紗理奈	国際学部	国際社会学科	2年	66
竹中いろは	国際学部	国際社会学科	2年	68
齊田 雛	国際学部	国際学科	1年	70
大根田芽衣	国際学部	国際社会学科	2年	73
平野 優麻	地域デザイン科学部	社会基盤デザイン学科	2年	76
石澤 華那	国際学部	国際学科	1年	80
伊藤 寛恵	国際学部	国際文化学科	2年	82
島根 由衣	国際学部	国際学科	1年	84
松田 悠希	教育学部	学校教育教員養成課程	4年	86

平成 30 年度夏期

杉沼佳奈重	国際学部	国際文化学科	3年	89
小林 美幸	国際学部	国際学科	2年	92
蕪澤 怜子	国際学部	国際文化学科	3年	94
長 佐和子	国際学部	国際社会学科	3年	97
菊池はる佳	国際学部	国際文化学科	3年	99
高橋 遼	工学研究科	機械知能工学専攻	1年	101
小田 雄紀	工学研究科	機械知能工学専攻	1年	104
齋藤 陽都	工学部	機械システム工学科	3年	107
及川 良太	工学部	機械システム工学科	3年	109
加納 優希	工学部	機械システム工学科	3年	111
野中 涼	工学部	機械システム工学科	3年	113
北村 綾乃	地域デザイン科学部	建築都市デザイン学科	1年	116
六本木晶瑚	地域デザイン科学部	社会基盤デザイン学科	3年	118

平成 30 年度春期

永吉いずみ	国際学部	国際学科	2年	……	121
堀越 桃奈	国際学部	国際学科	2年	……	124
中村 茉央	国際学部	国際学科	2年	……	126
野村佐和子	農学部	森林科学科	2年	……	132
山崎 香菜	国際学部	国際学科	2年	……	135
刈屋 陽菜	国際学部	国際学科	2年	……	138
中平 恵	農学部	森林科学科	2年	……	140
坂本 成美	国際学部	国際学科	2年	……	142
村上 遥佳	地域デザイン科学部	社会基盤デザイン学科	2年	……	145
遠藤 里桜	地域デザイン科学部	社会基盤デザイン学科	2年	……	147
荒井 寿美	国際学部	国際学科	2年	……	149

令和元年度夏期

金田日菜子	国際学部	国際学科	2年	……	151
矢吹 美帆	国際学部	国際学科	3年	……	155
佐藤 望生	地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	2年	……	158
宇川 梓	国際学部	国際学科	3年	……	163
小川 喬平	地域創生科学研究科	社会デザイン科学専攻	1年	……	169
小倉 初菜	国際学部	国際学科	3年	……	172
中野 美波	農学部	応用生命化学科	3年	……	174
高崎 達也	国際学部	国際学科	3年	……	182
糴山 泰陽	工学部	機械システム工学科	3年	……	185

II 参考資料

国際インターンシップの流れ	……	191
令和元年度春期国際インターンシップ募集要項	……	192
国際インターンシップ費用内訳と参加人数の推移	……	194
国際インターンシップの手引き	……	196
[1-1] 覚書 (大学←受入団体)	……	205
[1-2] 誓約書 (学生→受入団体)	……	206
[1-3] 誓約書 (学生&保護者→大学)	……	206
[2-1 A] 評定書	……	207
[2-2] 要望書	……	207
[2-1 B] 評価シート	……	208
[2-4] 実習日誌	……	209
[3-1] レポートの書式	……	210
[3-2] 事後アンケート	……	211
海外渡航届	……	212

平成 28 年度春期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
株式会社エマール エマールベトナム		H 29 / 3 / 6 ~ H 29 / 3 / 17	黒坂 明善 工学部 建設学科 2年
			宮内 幸弥 工学部 建設学科 2年
BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.	ベトナム	H 29 / 2 / 25 ~ H 29 / 3 / 24	菅 里咲子 国際学部 国際文化学科 2年
			清野 ひかる 国際学部 国際社会学科 2年
			和田 希歩 国際学部 国際社会学科 2年
Pacific Hotel & Spa Siem Reap	カンボジア	H 29 / 2 / 13 ~ H 29 / 3 / 10	飯塚 瞳 国際学部 国際社会学科 4年
			小林 凌大 国際学部 国際社会学科 2年

平成 29 年度夏期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
株式会社エマール エマールベトナム		H 29 / 8 / 20 ~ H 29 / 9 / 2	千葉 仁平 農学部 森林科学科 2年
			宮北 祥平 工学部 電気電子工学科 2年
BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.	ベトナム	H 29 / 8 / 15 ~ H 29 / 9 / 14	門上 友紀 国際学部 国際社会学科 3年
			藤田 萌々夏 国際学部 国際社会学科 3年
		H 29 / 9 / 1 ~ H 29 / 9 / 27	須田 愛 国際学部 国際社会学科 3年
			H 29 / 8 / 10 ~ H 29 / 9 / 8
株式会社キャム CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	H 29 / 8 / 29 ~ H 29 / 9 / 8	椎名 史織 国際学部 国際社会学科 3年
			森下 楓 国際学部 国際文化学科 3年

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
Pacific Hotel & Spa Siem Reap	カンボジア	H 29 / 8 / 28 ~ H 29 / 9 / 17	吉川 みゆき 国際学部 国際社会学科 3年
日光ケミカルズ株式会社 Nikko Chemicals (Singapore) Pte.Ltd	シンガポール	H 29 / 9 / 4 ~ H 29 / 9 / 15	澤口 巧太 工学研究科 物質環境化学専攻 1年 助川 雄太 工学研究科 物質環境化学専攻 1年
株式会社 三祐コンサルタンツ	ミャンマー	H 29 / 8 / 10 ~ H 29 / 8 / 26	谷 有美子 農学部 農業環境工学科 3年
一般社団法人 日本グローバル・ イニシアティブ協会	アメリカ	H 29 / 8 / 27 ~ H 29 / 8 / 17	鎌田 達磨 教育学部 学校教育教員養成課程 1年

平成 29 年度春期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
株式会社キャム CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	H 30 / 2 / 25 ~ H 30 / 3 / 20	井沢 賢人 工学部 応用化学科 4年
Pacific Hotel & Spa Siem Reap	カンボジア	H 30 / 3 / 12 ~ H 30 / 3 / 29	小川 紗理奈 国際学部 国際社会学科 2年 竹中 いろは 国際学部 国際社会学科 2年
ケラニア大学	スリランカ	H 30 / 3 / 5 ~ H 30 / 3 / 28	齊田 雛 国際学部 国際学科 1年 大根田 芽衣 国際学部 国際社会学科 2年
NPO 法人アプカス Non Profit Organization APCAS		H 30 / 3 / 1 ~ H 30 / 3 / 31	平野 優麻 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 2年
フエ外国語大学	ベトナム	H 30 / 3 / 1 ~ H 30 / 3 / 28	石澤 華那 国際学部 国際学科 1年 伊藤 寛恵 国際学部 国際文化学科 2年
たんぽぽ保育園		H 30 / 3 / 20 ~ H 30 / 4 / 2	島根 由衣 国際学部 国際学科 1年 松田 悠希 教育学部 学校教育教員養成課程 4年

平成 30 年度夏期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
フエ外国語大学	ベトナム	H 30 / 8 / 27 ~ H 30 / 9 / 21	杉沼 佳奈重 国際学部 国際文化学科 3年
			小林 美幸 国際学部 国際学科 2年
たんぽぽ保育園		H 30 / 8 / 28 ~ H 30 / 9 / 20	菲澤 怜子 国際学部 国際文化学科 3年
Pacific Hotel & Spa Siem Reap	カンボジア	H 30 / 8 / 20 ~ H 30 / 9 / 15	長 佐和子 国際学部 国際社会学科 3年
			菊池 はる佳 国際学部 国際文化学科 3年
株式会社キャム CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	H 30 / 8 / 7 ~ H 30 / 8 / 24	高橋 遼 工学研究科 機械知能工学専攻 1年
			小田 雄紀 工学研究科 機械知能工学専攻 1年
Infinity Automation [Thailand] Co.,Ltd.		H 30 / 8 / 27 ~ H 30 / 9 / 17	齋藤 陽都 工学部 機械システム工学科 3年
			及川 良太 工学部 機械システム工学科 3年
Infinity Automation [Thailand] Co.,Ltd.		H 30 / 8 / 20 ~ H 30 / 9 / 21	加納 優希 工学部 機械システム工学科 3年
			野中 涼 工学部 機械システム工学科 3年
NPO 法人アプカス Non Profit Organization APCAS	スリランカ	H 30 / 8 / 20 ~ H 30 / 9 / 14	北村 綾乃 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 1年
			六本木 晶瑚 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 3年

平成 30 年度春期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
フエ外国語大学	ベトナム	H 31 / 2 / 25 ~ H 31 / 3 / 15	永吉 いずみ 国際学部 国際学科 2年
たんぽぽ保育園		H 31 / 3 / 2 ~ H 31 / 3 / 14	堀越 桃奈 国際学部 国際学科 2年
			中村 茉央 国際学部 国際学科 2年

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
Insar Tours & Travel Sdn. Bhd.	マレーシア	H 31 / 2 / 25 ~ H 31 / 3 / 8	野村 佐和子 農学部 森林科学科 2年
		H 31 / 3 / 11 ~ H 31 / 3 / 29	山崎 香菜 国際学部 国際学科 2年
サラワク大学 UNIMAS		H 31 / 2 / 25 ~ H 31 / 3 / 22	刈屋 陽菜 国際学部 国際学科 2年
		H 31 / 2 / 11 ~ H 31 / 3 / 1	中平 恵 農学部 森林科学科 2年
		H 31 / 3 / 4 ~ H 31 / 3 / 29	坂本 成美 国際学部 国際学科 2年
NPO 法人アプカス Non Profit Organization APCAS		スリランカ	H 31 / 2 / 18 ~ H 31 / 3 / 15
			遠藤 里桜 地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 2年
ケラニア大学	H 31 / 3 / 18 ~ H 31 / 3 / 29		荒井 寿美 国際学部 国際学科 2年

令和元年度夏期 国際インターンシップ 協力企業・参加者一覧

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
フエ外国語大学	ベトナム	R 1 / 9 / 9 ~ R 1 / 9 / 27	金田 日菜子 国際学部 国際学科 2年
			矢吹 美帆 国際学部 国際学科 3年
たんばぼ保育園		R 1 / 9 / 3 ~ R 1 / 9 / 20	佐藤 望生 地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 2年
			宇川 梓 国際学部 国際学科 3年
Signart Design		R 1 / 9 / 3 ~ R 1 / 9 / 20	小川 喬平 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 1年

企業名 上段：国内企業名称 下段：現地企業名称	国名	期間	参加者名／所属／学年
Insar Tours & Travel Sdn. Bhd.	マレーシア	R1/8/19 ～ R1/9/7	小倉 初菜 国際学部 国際学科 3年
		R1/9/11 ～ R1/9/26	中野 美波 農学部 応用生命化学科 3年
株式会社キャム CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	R1/9/2 ～	高崎 達也 国際学部 国際学科 3年
		R1/9/22	榎山 泰陽 工学部 機械システム工学科 3年

I . 実施報告

平成 28 年度 春期報告書

学部／学科：工学部 建設学科 学年：2年 氏名：黒坂 明善
実習先：エマールグループ (ベトナム ホーチミン市)
実習期間：平成29年3月6日～3月17日



1. 実習先の概要

社名：エマールベトナム

代表取締役：早坂 秀樹

設立：2005年9月7日

資本金：USD 100,000

所在地：501 Nguyen Lam Tower 133 Duong Ba Trac, Phuong 1, Quan 8,
TP Ho Chi Minh, VIETNAM

事業内容：緑地管理業務、施設管理業務の請負、住宅用建材（ドア、シャッター）の設計及び製図
データ作成、加工、設計、各種ソフトウェアの開発

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

- 3/6 各部署に挨拶、緑地管理コスト削減のための改善策の考案
- 3/7 改善策の考案（続き）、朝礼に参加
- 3/8 サイゴン大学訪問、現地大学生との交流
- 3/9 ホーチミン1区の歴史的建造物の見学
- 3/10 ホーチミン1区の商業施設の見学、任務の遂行
- 3/11 ホーチミン近郊に建設中の総合娯楽施設の見学
- 3/13 山崎さんにお礼の挨拶やお話、スピーチ原稿の作成
- 3/14 朝礼にてスピーチとその反省
- 3/15 HQC プラザ（マンション）とELT（肉の加工工場）の見学
- 3/16 LIXIL 工場内の緑地とホーチミンで最も大きな橋の見学
- 3/17 2週間の振り返り、朝礼にてスピーチ、各部署にお礼の挨拶

2.2. 実習写真



図1
初日の話し合いの
様子



図2
サイゴン川
埋め立ての様子



図3
工場横の
駐車スペース



図4
緑地管理作業の
様子

3. 実習を通して学んだこと

2週間の実習の中で私は①準備の重要性②最初に立てた目標を忘れてはいけない③困難に直面した時も諦めてはいけないということ学びました。

仕事や任務に向かい合った時、準備が不十分では作業を円滑に進めていくことは出来ないし、見通しを立てることも出来ません。また、目標を忘れてしまったり目標からそれてしまうと妥協が生じたり良い結果は得られません。そして困難に直面した時こそ諦めずあらゆる手段を考え、計画的に行動することが重要であると学びました。

4. まとめ

今回の実習では初対面の人であったり、日本人以外の人と交流する機会がとても多くありました。その交流の中で私はとても大事なことを二つ学びました。

一つ目は英語の重要性です。私はこの2週間でできる限り外国の方と交流をしたいと思い慣れない英語を使いベトナム人や世界各国から来た旅行者と話をしました。簡単な英語や日常会話はあまり不自由なく話すことが出来ました。しかしながら肝心な時に自分の言いたいことを言えなかったり、聞いている振りをしても相手の言っていることがよくわからず会話が成立しなかったりとても悔しい思いをしました。将来日本をでて仕事をしたいという気持ちがあるので英語を勉強しなくてはならないと感じました。

二つ目は積極性を持たなければいけないということです。実習の初日、会社の方が私たちのために朝礼の中で自己紹介の時間を設けてくださいました。私や社員の方は日本語が通じるし、大人数の前でスピーチをするのは緊張するしと思いマイナスに考え、準備を怠り全て日本語でスピーチをしました。あとで「普通は最初の一言ぐらいベトナム語で挨拶するものだよ。」と言われ恥ずかしくなり、いかに当たり前のことをできていなかったか、積極性が足りてなかったかということに気づかされました。相手に心を開いてもらうためには、まずは自分が相手に興味や関心を示し心を開くことが重要だと学びました。

また阿蘇さん、山崎さんに「仕事とはどういうものなのか。人は何のために生きているのか。」ということ等相談にも乗っていただき、改めて自分を見つめなおすことが出来ました。それにより自分の長所とは行動力があることだと気づきました。しかしながら、その行動力が時には裏目にでて計画性に欠けた行動をしてしまったり、上記のように準備を怠るという傾向があります。残る大学生活のなかで努力し、この欠点を克服したいと思います。

5. 謝 辞

この2週間で私はたくさんの人と出会い、大変貴重な経験をする事が出来ました。この経験を活かし、これからも日々努力していきます。エマールグループの皆様、お忙しい中2週間面倒を見ていただいた阿蘇さん・山崎さん、並びにインターンシップ職員の方々には心から感謝申し上げます。

学部／学科：工学部 建設学科 学年：2年 氏名：宮内 幸弥
実習先：エマールベトナム、ブルードラゴンストラクシオン
実習期間：平成29年3月6日～3月17日



1. 実習の目的

私が国際インターンシップに参加した目的は、自分の視野や考え方を広げるためである。20年間、日本でいろいろな経験をしてきて、最近では起業について考え始めた。そして今の自分に縁のないと思われる世界に飛びだしてみたかった。これから進んでいくと思われるグローバル化をこの身で体験する。ベトナムという国について学ぶ。日本とベトナムの仕事、生活、意識の違いを感じる。

2. 実習先の概要

エマールグループは「人を愛し、人を生かせ」の企業理念のもと、製造請負（ODM）、労働者派遣事業、設計・開発、コンサルティング事業、海外事業など幅広く取り組み、人材サービス業のグローバル化に先駆け、日本及びアジア圏労働者を採用している。

3. 実習内容

3.1 実習スケジュール

8:00	出 社
8:15	朝 礼
8:20～	実習開始
12:00～13:00	お昼休み
17:15	退 社

3.2 実習内容

6日～7日	工場の緑地管理に関するコストカット案の検討
8日	サイゴン大学の見学
9日～10日	市内見学 証跡博物館、教会、郵便局、オペラハウス
11日	ベトナムの最新施設の競馬場の見学
13日	朝礼のスピーチ作成
14日	朝礼、スピーチ
15日～16日	工場周りの緑地と寮の見学
17日	振り返り、お礼のあいさつ

4. 実習の感想と学んだ事

私はこの二週間で沢山の事を学んだ。専門的な知識よりも海外での仕事や生活を多く学ぶ事が出来た。実際に初日から緑地の管理のコストカットの為に案を考えるという課題をこなしたが、現地のベトナム人スタッフに通訳をしてもらいながら進めていった。仕事というものをするのにあたって、日本国内にいるだけでは分からない言語の壁というものを感じた。そういったマイナスに

働く要因でも、プラスに転じさせることができるように考えるという事を教わったが、実践することは今の自分には難しいと感じた。その他にもベトナム人と日本人の考え方の違いを感じる場面が多くあった。海外に出た時こそ、日本人としての意識が必要であると教えてもらった。海外で、あまり活躍できない性格と言われる日本人の武器は日本人としての美学であると感じた。

日本人としての美学というのは、自分のした事に責任を持ち、日本人としての誇りと意識を常に忘れない事である。自分の仕事に責任を持つためには、その他にも、人間は何の為に生きて、何の為に働いて、死ぬのか気づけた点も自分の中では大きな収穫であるといえる。

これからは、自分も日本人としての意識、プライドをもって、自分の短所すらも長所に変え、柔軟な発想をして様々な事に挑戦していきたい。

5. 謝 辞

今回はお忙しい中、私達インターン生の為に時間を割いていただき、何も知らなかった私にたくさんのお話を教えて下さった山崎さん、阿蘇さんをはじめとする株式会社エマールグループの皆様にはとても感謝しております。今回のインターンで、自分の力だけでは得られない経験と考え方を学ぶ事が出来、人間として成長することが出来ました。2週間本当にありがとうございました。



写真1 街中での工事の様子



写真2 最新の競馬場の構造



写真3 緑地に散水する様子



写真4 日陰を生み出す緑地の在り方

学部／学科：国際学部 国際文化学科 学年：2年 氏名：菅 里咲子
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年2月25日～3月24日



1. 実習先の概要

ベトナム、ハノイ市

企業コンサルティング、イベント及びTV製作コーディネート、日本語学校運営、人材派遣等、多様な業務に携わる。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
2月19	20	21	22	23	24	25
					ハノイ着	午前～午後 アンテナショップ
26	27	28	3月1	2	3	4
午前～午後 アンテナショップ	休み	休み	午前： 打ち合わせ 計画案作成 午後： 動画作成	午前～午後 動画作成	午前： 模擬授業 動画作成 午後： 動画作成	午後： 子供図書館
5	6	7	8	9	10	11
午前～午後 ユニマート	休み	休み	午前： 動画作成 午後： 教材開発	午前： 動画作成 午後： 動画撮影(外)	午前： 模擬授業 動画作成 午後： 動画作成	午前： 子供チャモ 午後： 動画作成 教材開発
12	13	14	15	16	17	18
休み	休み	午前： 動画作成 午後： 教材開発	午前： 動画撮影(外) 午後： 教材開発	午前： 教材開発 午後： 動画作成	午前： 模擬授業 午後： 動画作成	午前： 動画作成 午後： 子供図書館
19	20	21	22	23	24	25
午前： 子供ハイフォン	休み	午前： 動画作成 午後： 教材開発	午前： 教材作成 午後： 動画作成	午前： 動画作成 午後： 教材開発	午前： 教材開発 午後： 動画作成	
26						
帰国						

2.2 実習内容詳細

(ア) Facebookの更新

出勤日に1更新以上。私は、会話クラブのページに、日本語に関する役立つ情報や表現の解説を掲載した。

(イ) 北関東3県の物産PR

栃木・茨城・群馬の商品をイオン・ユニマートなどでブースを構え、売る。浴衣を着て、ベトナム語のポップを持つなどして、宣伝した。

(ウ) 動画作成

私が作成した動画は全部で9本ある。そのうち、3本は3人に課せられた「留学生向け動画」の病院編である。残りの6本は、私個人に課せられた「子供クラス教材用動画」である。

(エ) 日本語教室

子供の日本語教室を行う。前日に模擬授業を行った。

(オ) 子供クラス教材開発

子供の日本語教室で実際に使用するゲーム（主にカードゲーム）などを思案し、作成した。



写真1 イオンでの北関東3県の商品PR



写真2 動画撮影 (外)



写真3 子供チョモの授業風景



写真4 教材開発

3. 実習の感想・学んだこと

今回の実習で学んだことは、2つある。1つ目は、相手（お客様や日本語学習者など）のニーズに答えることだ。特にそう感じたのは、動画作成をしているときだった。誰に向けて作っているのかで内容が大きく異なってくることに気付き、相手を第一に考える重要性を感じた。子供クラスの動画と留学生向け動画では、レベルが違えば内容の単純さも変わってくるので、それぞれの相手に合わせた動画を作ることを意識した。子供クラスの動画には字幕を多くつけたり、楽しく分かりやすい単純な内容にしたりと工夫した。留学生向け動画では、覚えるべき単語などをできるだけ取り入れ、必要に応じて字幕を付ける。そして、できるだけ実際の場面を想像できるように画像などを多く取り入れた。また動画作成だけでなく、日本語教室の授業を行っているときも、どうすれば子供たちが興味を持って話を聞いてくれるか、などを考えていた。そして、イオンやユニマートで働いた

ときも、試食や試飲など、お客様の要望に沿うことが重要なのだと思った。2つ目は、コミュニケーションの重要さだ。実習を通して多くの方々と触れ合う機会があった。その中で友達として接するのか、ビジネスの相手として接するのかによって大きくコミュニケーションの仕方が変わってくると感じた。友達であれば気楽に話しかけることができるが、ビジネスの相手となると、信頼感などを得るためにも自分の振る舞いなどを意識する必要がある。身だしなみや振る舞いなども、自分の仕事へ影響してくると感じた。

また、1カ月間ベトナムで暮らし、多くの方々と触れ合うことで、「海外（ベトナム）から見た日本」を感じることができ、自分の興味を広げることができた。ベトナムの日本語学習者と話すことで、ベトナムに進出している日本企業のすごさを知った。私が話した子たちに日本語を学んでいる理由を尋ねると、日本の漫画やアニメに興味があったからという理由ではなく、日本の企業に就職したいから、という理由が多かったように思う。そこで、ベトナムでは日本の文化よりも日本の企業などのほうが影響しているからなのではないかと考え、ベトナムと日本の社会的関係を学びたいと思った。私の専攻が文化学科であるため、生活習慣などの文化を体験することも楽しかったが、社会的な事柄を知識として持っていれば、よりベトナムという国を感じることができたのではないかと考える。また、今までは他国の文化を学び、「受け入れる」ということを重点に学んできたように思うが、今回、商品PRや日本語教室を通して、日本の文化を「伝える」ということも楽しいと思った。実際に、試食や試飲で日本の食文化を感じたり、書道などの伝統的な文化を体験したりする方々を見てうれしく思ったのと同時に、「日本にはこんなものもあるよ」と伝えたいと思った。日本の良いところを再発見できたように思う。今後、このような気持ちを大切にしたいと思う。

4. まとめ

今回のインターンシップで学んだことは、これから社会へ出て、働く中で最も重要なことであると思う。相手のことを考えることと、コミュニケーションの大切さを実習が進んでいくなかでどんどん意識するようになった。その強い意識を持ち続けられるように努力したい。とくに、コミュニケーションは多くの人とすればするだけ自分の知識となるので、積極的に行っていきたい。また、興味を広げることができたため、視野を広くすることができたように思う。その広い視野で、これから将来のことを考えるときに、迷いはあるけれど、そこから新しい答えへと導いていきたい。

5. 謝辞

今回はお忙しい中、私たちを受け入れてくださりありがとうございました。業務だけでなく、日常生活においても様々なサポートをしてくださり、とても感謝しております。1カ月という期間は長いようで短く、その中で多くの経験をし、「社会」という場を、そして海外で働くということを実際に感じることができました。貴重な体験を本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：2年 氏名：清野 ひかる
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年2月25日～3月24日



1. 実習先の概要

企業：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.

事業内容：日本語学校／貿易による日本の商品の販売／アジアビート（日越の若者の交流促進）

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
2月19日	20	21	22	23	24	25
					ハノイ着	アンテナショップ
26	27	28	3月1日	2	3	4
アンテナショップ	休み	休み	朝：打合せ・面談 午前：動画撮影計画	午前：計画案発表 午後：計画案の修正	午前：打合せ・面談、 こども模擬授業 午後：動画撮影(外)	体調不良により 休み
5	6	7	8	9	10	11
休み	休み	全日：動画等の作業	朝：打合せ・面談 午前：動画撮影・編集 午後：子供クラス教材	午前：その他の作業 午後：動画撮影(外)	午前：打合せ・こども 模擬授業 午後：動画修正、提出	午前：動画作成 午後：子供クラス (図書館)
12	13	14	15	16	17	18
午前：子供ハイフォン	休み	休み	朝：打合せ・面談 午後：動画撮影(外)	午前：子供教材動画 撮影 午後：動画編集/子供 クラス教材改善	午前：打合せ・面談 こども模擬授業 午後：動画修正、提出	午前：子供クラス (ランハー)
19	20	21	22	23	24	25
休み	休み	朝：打合せ⇒作業	全日： 動画関連の作業	午前：動画編集 午後：動画編集、発表 /子供クラス教材改善	午前：打合せ・面談 動画修正・提出	動画修正

2.2 実習内容詳細

① Facebook の更新（毎日）

日本の生活や大学生活についての情報を紹介する。例) ドライブスルー／温泉／こたつ等

② 日本語学校の子供クラスの授業

子供クラスの授業を行う。1 コマ 2 時間、パワーポイントを使用。

③ 動画の作成

・留学生ストーリー

日本への留学を希望する学生向けの動画。

日本で直面するであろう問題を紹介、解説する。例) 電車やバスなどの公共交通機関の乗り方等

・文法で差をつけよう

J L P T（日本語能力技能検定試験）の受験を希望する人が見て学べる内容。

あき日本語学校で J L P T の対策ができることがわかるプロモーション用動画。

3. 実習の感想・学んだこと

「動画の作成」と「子供クラスの授業」の業務の大きな違いは、相手が見えているかどうかということであった。生徒を相手に授業することは、生徒のリアクションがすぐに返ってくるため自分の仕事がわかりやすかった。一方で、作成した動画は誰が見てどのように使用するかは知ることが困難である。アルバイトでは接客業に従事していたため相手が見えていたが、相手を知ることができない仕事もあるということを学んだ。また、そのような仕事において、目的や見えない相手を意識して作業することの難しさと重要性も学ぶことができた。

また、様々な業務に関わらせてもらえたことで自分の得意・不得意を知ることができ、自分自身と向き合うきっかけになった。

4. まとめ

働くうえで大事にすべきことを学ぶことができた。人とのつながりやある程度の利益、仕事仲間や仕事相手とどのように関係を築くか、そして健康でいることなど、社会へ出るときに参考になるだろうと思っている。

5. 謝 辞

1か月の実習中に数回体調を崩してしまいました。病院へ行くことを望んだ時も素早く対応してくださり、多くのご迷惑をかけてしまったにもかかわらず、いつでも真摯に向き合ってくださいました。何よりも1か月もの間、貴重な経験ができる環境を用意していただいたことに心から感謝しております。ありがとうございました。

6. 参考文献

あき日本語学校 Face book アカウント

(<https://www.facebook.com/truongtiengnhataki>2017年4月6日閲覧).

あき日本語学校 You Tube アカウント

(<https://www.youtube.com/channel/UChix0ONzVlylRvqvGBwCKFw>

2017年4月6日閲覧).

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：2年 氏名：和田 希歩
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年2月25日～3月24日



1. 実習先の概要

本社所在地：ベトナム ハノイ市

事業内容：日本語学校運営、プロジェクトトータルコーディネート、日本企業への総合サポート、通訳・翻訳サービス、調査・コンサルティングサービス、人材派遣サービス、旅行手配サービス等といった幅広い事業展開、日本とベトナムの架け橋となる企業である。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土
①						2月24日 ハノイ着	北関東物産PR活動 (イオンモール)
	26	27	28	3月1	2	3	
②	午前：ハイフォンクラス 午後：北関東物産PR活動 (イオンモール)	休み(全員)	休み(全員)	朝：打ち合わせ・面談 午前：業務計画立案作成 午後：動画撮影(外)	午前：計画案発表、修正 午前：動画作成	午前：打ち合わせ・面談 子供クラス模擬授業 午後：動画撮影(外)	北関東物産PR活動 (ユニマート)
	5	6	7	8	9	10	
③	北関東物産PR活動 (ユニマート)	休み(全員)	休み(全員)	体調不良のため欠勤	午前：PR動画 午後：動画撮影(外)	午前：打ち合わせ・面談、こども模擬授業 午後：FB用動画撮影(外)	午前：ランパークラス 午後：教材開発、動画作成
	12	13	14	15	16	17	
④	休み	休み(全員)	午前：留学生ストーリー動画作成 午後：教材開発	午前：動画撮影(外) 午後：動画撮影(外) 教材開発	午前：動画修正 午後：FB用動画作成	午前：打ち合わせ・面談、こども模擬授業 午後：教材開発、動画作成	午前：チョコクラス 午後：教材開発
	19	20	21	22	23	24	
⑤	午前：ハイフォンクラス	休み(全員)	休み	午前：動画編集 午後：教材開発、留学生ストーリー動画修正	午前：動画編集 午後：教材開発	動画修正、完成版の提出	

2.2 実習内容詳細

(1) 日本語学校の授業

小学生から中学生向けの日本語教室の授業を担当。

(2) Facebookの更新

ベトナムで見つけた面白いことについて更新する
(毎日1～2回更新)

(3) 日本語学校、子供クラスの教材開発

日本語学校で使用する教材開発を行う。ゲーム感覚で楽しめる教材を作成。

(例)：買い物ゲーム(「～をかいます」の練習)

(4) 留学生向け動画

日本へ留学するベトナム人学生に役立つような日本の情報を提供する動画

(例) 切符の購入／ごみの分別

(5) 日本語学校PR動画

日本とベトナムの若者の交流を促進することを目的とした動画作成を行う。

内容：日本とベトナムの学生達に短いダンスに協力してもらい、その動画を繋ぎ合わせて一本の動画を作成する。



写真1 (1)日本語学校の授業風景

(6) 北関東物産 P R 活動

栃木、茨城、群馬の物産の P R 活動をイオンモールやユニマート（スーパーマーケット）で実施する。（浴衣着用）



写真 2 (6)北関東物産 P R 活動時の様子

3. 実習の感想、学んだこと

今回の実習で学んだこととして 2 点挙げる。

1 点目は、会社やお客様が求めているニーズに応えることの重要性である。私たちは 1 か月の間、BMF のインターン生として社員の方々と同じ空間で仕事をしてきた。その中で、自分自身がやりたいこと、考えていることと会社の要求の間に、度々ずれが生じていたような気がする。ここで私は、仕事をするときは、自分の「したい」「やりたい」よりも、まず会社やお客様が何を求めているのかを知り、またその目的を明確にしながら業務を進めることの重要性や効果を強く感じた。特に、動画作成や、日本語学校の授業時に、お客様のニーズに応えることの必要性や重要性を感じ取ることができた。

2 点目は、コミュニケーションの大切さである。私は、元々、人とコミュニケーションを取るのが得意ではなく、一人で集中して作業することが多い。これは、時には強みとなり、時に弱みとなるという双方の可能性があるということを実習で学んだ。

同じ会社に勤める人は、ライバルではなく仲間である。グループで行う業務だけでなく、個人の業務を行う際にも、仲間から意見をもらい改善していくことは、自分にとっても会社にとっても良い効果をもたらすということを実感した。このような学びは、1 点目の「お客様のニーズに柔軟に応える」といった際にも、大きな力を発揮すると考える。社内での円滑なコミュニケーションや、チームワークがしっかりしていればしているほど、お客様に満足していただけたと思った。

4. まとめ

今回のインターンシップは、自分を知るよい機会になったと考える。実習中は、元々希望していた業務以外の異なる様々な業務にも携わらせていただいた。私は、最初、双方の国の若者の交流を促進するような取り組みや企画運営等に興味があったが、業務を進めていく中で、全く興味がなかった日本語学校での授業の面白さや、やりがいに気付くことができた。生徒は皆、積極的で、とても可愛らしかったのが印象的である。このように、自分が興味のある範囲だけに目を向けるのではなく、まず何でも挑戦してから、自分の向き不向きや、得意不得意を判断することが大事だと感じた。

こういった経験は、アルバイトや学生生活では得ることが難しい。学生の間は、自分の興味のある専門分野について研究し、自分の興味のあるサークル、アルバイトに所属する。それは、学生の特権であり、学ぶことは多い。しかし、社会に出た際には、自分の興味の範囲で生活することはさらに難しくなると考える。どんな会社に就職しても、自分が苦手な仕事、人等と接することがあるだろう。そうした際に、最初から壁を作るのではなく、与えられた環境の中で、何でも挑戦することは、自分自身が成長する機会となり、新たな可能性を開拓することができる、身をもって感じることができた。

今後は、この貴重な 1 か月の経験を無駄にせず、何にでも挑戦する姿勢を常に持ち続けたい。

5. 謝辞

お忙しい中、一か月間もの間、私たちインターン生を受け入れてくださった BMF の簗田社長、アキ様をはじめ、業務だけではなく生活面のサポートもして下さった長谷川様、幡野様、ならびにベトナム人スタッフの皆さまには、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

皆様のサポートのおかげで、充実したインターンシップとなり、不安を感じることなく、ベトナムでの生活を楽しむことが出来ました。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：4年 氏名：飯塚 瞳
実習先：Pacific Hotel (カンボジア)
実習期間：平成29年2月13日～3月10日



1. 実習の目的

私が今回国際インターンシップに参加した理由は2つある。まずは自分の英語能力がビジネスで、またこれから自信をもって使いこなしていけるのかを確かめることである。そしてもう1つは、自分の卒業研究に向け、外国人が日本人に対してどのような印象を持っているのか、またカンボジア人の考え方や文化を知ることである。

2. 実習先の概要

Pacific Hotelは世界的にチェーン展開しているホテルグループで、今回のインターン先はアンコール・ワットで有名なカンボジア・シェムリアップにあるホテルである。シェムリアップ国際空港からほど近く、客室は236室、スパやプールもある。主に中国人、韓国人、日本人観光客が多いが、ヨーロッパや南米からの利用者もいる。

3. 実習内容

Guest Communication Officerのトレーニング過程という形でのインターンシップなので、フロントにてチェックイン・チェックアウト準備や作業だけでなく、客室までのエスコートやお客様と会話することも重要な仕事の1つである。

特に日本人観光客の対応を多く行った。

4. 感想

この4週間で私は様々なことを考え、経験した。その中で常々意識したことは、4週間でどこまでホテルのスタッフを知り自分が彼らのようにになれるのか、そしてインターンシップ生としてホテルに何を残せるのかということである。

しかし最初のころはそれどころではなく、事前に準備しておけばよかったという反省点が3つある。

1つ目はホテルのフロントの仕事を調べておくことである。フロント業務というのは、フロント内での業務だけだと思っていたが、ロビーの中全て、また部屋のチェックなど多岐に渡っていることにまず驚かされた。

2つ目は英語を磨いておくことである。最初のころは、自分の英語能力が足りずうまくコミュニケーションが取れなかったことについて悩んでいた。1つの仕事を教わり覚えることに大変な時間と労力がかかった。しかし、既に3回目のインターン生の受け入れということのおかげか、現地のスタッフが親切に何度も教えてくれ、自分の知っている日本語で緊張をほぐしてくれ大変ありがたかった。またお客さんに英語を覚えてもらうこともあった。

最後が、日本の礼儀作法について知っておくことである。日本語が出来るということで、日本人のお客さんの対応を主に任されていた。自分では飲食店でのアルバイトなどで敬語の使い方やお客さんの対応を知っているつもりであったが、いざ仕事をする、クレームへの対応や謝罪の仕方、お客さんとの距離感など、わからないことが沢山あった。その中で一番印象に残っているのは、フロントマネー

ジャーのDalisさんが、「日本人のお客さんのクレームには、どう対応していいかわからない。」と言っていたことである。その理由は、日本



写真1 フロントスタッフと



写真2 Dalisさんと

人のお客さんに対してお詫びのしるしとして、何かホテル側からプレゼントしようとしても、「No」と言われてしまうとのことである。どうしたらよいのか尋ねられたが、私自身のそういった経験がなく、きちんと答えられなかったことが悔しかったのを覚えている。

これらのことは、日本で簡単にでも事前に準備出来ることだったと思っている。

ホテルのフロントスタッフについて考えるようにしていたのは、実習の目的の1つでもある、日本人への対応、また他の国からの観光客にどのように対応しているのかを知るためである。実際のところ、最初のころは日本人のお客さんも日本人スタッフの私たちに興味を持ってくれ、会話がはずみつつ長話をしてしまうことが多かった。しかし、他のスタッフを見ているとお客さんと確かに会話はしているが長話はせず、挨拶と簡単な会話程度であることに気づいた。それまでは、ホテルのスタッフとしてではなく、1人の学生としておしゃべりをしてきたことに気づかされた。

その後は、どのようにお客さんに対応しているのかなどをスタッフに聞き、お客さんには、どのようなホテルの点が気になるのかなど、目的を忘れないよう心掛けた。

またインターン生として何ができるのか、何をすべきなのか考えるきっかけとなったのは、「最近インターンがブームみたいになっているけど、学生への利点はわかるけど、企業側の利点って何だろうね。」という言葉である。カンボジアに住む日本人の集まりに参加させていただいた時に聞かれた言葉だ。その時は答えられなかった。その後、私がホテルのために出来ることは何かを考え、スパの案内を日本語へ翻訳することを始めた。それが終わると、嬉しいことに他の部署からも部屋に貼る案内の翻訳などを頼まれるようになった。また、私が帰国した後は、日本人への対応は英語が中心となるので、スタッフに簡単な日本語の挨拶を教え、インターン中に感じた応対時に気を付けることも出来る限り伝えるようにした。

この4週間はこれまでに述べたことだけでなく、他にも数えきれないほどの経験を得て大変充実したものだ。最後に、1番嬉しかったことは、マネージャーさんと一緒に働かないかと誘われたことである。このインターンで私が悶々と毎日考えながら行動してきたことに気づいてくれ、認められたという事が本当に嬉しく思わず笑みがこぼれた。

就職活動を目前にしている私にとって自分がどのように働きたいか考えるいい機会となり、ここで磨いた英語だけでなく、インターンの受け入れ側のように相手のことも考え行動するという幅広い視点を武器に就職活動に臨みたいと思う。また、この後社会に出ても、この経験を忘れずに生活していきたい。

5. 謝辞

I would like to express deepest appreciation to all the staffs of Pacific Hotel. Without their persistent help this internship would not have been possible. I am looking forward to being able to see you next time.

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：2年 氏名：小林 凌大
実習先：Pacific Hotel
実習期間：平成29年2月13日～3月10日



1. 実習先の概要

今回実習させていただいた Pacific Hotel は、アンコールワット遺跡群にアクセスしやすく、また繁華街まで車、トゥクトゥクで約10分という立地にある4つ星ホテルである。客室は236室あり、プール、スパ、フィットネスルーム、レストラン、会議室、バーを2つ完備しており、日本人を含む多くの海外からの観光客がこのホテルを利用していた。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

前半の2週間はナイトシフトで、後半の2週間はモーニングシフトであった。
休憩は約30分、休みは週に1回で、日曜日が休日であった。

日 程	勤務時間	休 憩
2 / 13 ~ 2 / 18	14 : 00 ~ 23 : 00	18 : 00 ~ 18 : 30
2 / 19 ~ 2 / 25	14 : 00 ~ 23 : 00	18 : 00 ~ 18 : 30
2 / 27 ~ 3 / 4	8 : 00 ~ 17 : 00	11 : 00 ~ 11 : 30
3 / 6 ~ 10	8 : 00 ~ 17 : 00	11 : 00 ~ 11 : 30

2.2 実習内容の詳細

ホテルの受付を担当。日本人以外にも対応したが、主に日本人ゲストに対応した

- ・チェックイン、チェックアウトの手続き
- ・ゲストを部屋まで案内
- ・ルームカードの準備
- ・ルームチェック
- ・簡単に通訳
- ・スパ、食事のメニューの翻訳
- ・電話対応
- ・ゲストの宿泊データ修正
- ・日本人ゲストのクレーム対応
- ・宿泊時に渡すスカーフの準備
- ・ロビー巡回
- ・日本人からの質問をまとめる
- ・トゥクトゥク、タクシーの手配

3. 実習の感想・学んだこと

海外で仕事をするにおいて一番重要なことは、やはり言語だ。仕事中はすべて英語での会話だったがカンボジア独特の発音が多く、最初のうちは聞き取ることがとても大変だった。旅行で楽しく会話するときと違って、仕事中の会話は聞き取ること必死で、笑って聞き流すことができない。何度も何度も聞いて、時には紙に書いてもらって会話をした。それは僕が話すときも同じで、スムーズに伝わるようにあらかじめ紙に文字化してから話すようにした。このように言語における壁は大きく、最初のうちはとても悩んだ。しかし、仕事で沢山使う単語というのがわかってくると、だんだん聞き取ることができるようになり、そこまで悩まなくなっていく。

今回は、たった1ヶ月間のインターン生であったため簡単な仕事が多かったと思う。だから言語の壁

が直接ゲストに影響を与えることが少なかったが、長期的に海外で仕事をするとなると言語の壁というのは大きく仕事に影響してくるだろう。今回は、英語の勉強がどれだけ重要か身をもって知ることができた。

また今回はホテルで実習させてもらったということもあり、様々な国籍の人々と触れ合うことができた。様々な国籍の人々が1つのホテルに集まると、文化、価値観の違いから生じる違和感に沢山触れることができ、興味深かった一方で今回はゲストに快適な時間を提供するという立場にあったので、その違和感を解消する役目を担い、どのようにすれば解消できるのか考える貴重な時間を得ることができた。

私に対応した多くの日本人の方々は、日本人のスタッフがいると安心するとおっしゃっており大変嬉しかった。英語がうまく話せないゲストの方々が快適にスムーズに旅行を楽しめるようにタクシーやトゥクトゥクを手配したり、スパの予約をしたり、ホテルのサービスをお勧めしたり、また食事のメニューを翻訳するなど、自分が日本人スタッフとして対応することができることはそれなりに多かったと思う。しかし、クレームがあった場合の対応には悩まされることも多かった。どのような対応の仕方があるのか分からなかったのもあるが、なにより文化の違いが原因で引き起こされるクレームには、どう対応すべきか悩んだ。文化の違いが原因だと説明しても、中にはあまり納得してくれないお客様もあり、海外でサービス業をすることの大変さを実感した。

海外で仕事をする上で、文化の違いを理解するのは重要である。これは従業員同士なら文化の違いに対する理解もあり、時には笑って受け入れることもできる。しかし、これが従業員とお客様の関係になると解決が難しいと感じた。従業員はお客様を第一に考える。この関係性において、解決の難しい文化の違いが原因の問題をお客様に理解していただくにはどうしていいのか。海外でサービス業を営む上でお客様に文化の違いを理解していただくためのなんらかの工夫が重要になってくるだろう感じた。

4. まとめ

今回のインターンが自分の将来にどのように役立つかは具体的にはわからない。しかし、海外で働く経験ができたことは、自分が将来やりたいと思っている日本と海外を行き来するような仕事を、より具体的そして現実的なものとして考えるきっかけとなった。また、今の自分が海外で働くことに対して、まだ無力であることを実感できたことは本当によかったし、なにより一緒に働いていたカンボジア人の友人達から沢山刺激を受けた。正直、今の自分よりも彼らのほうが世界で働くうえで即戦力となり活躍できるだろう。そのことをインターンシップで痛感し、もっと努力しなければこのグローバル化している社会で生き残っていけないと自覚できた。まずは、英語能力を向上させるために勉強しつつ、これからも海外で様々な活動を経験していきたいと思う。

5. 謝 辞

Dear all the staff of pacific hotel

Thank you so much for providing me with such a great opportunity and your kindness during my internship training. In the first time, I worried about whether I could get along with you because of my English skill lwas poor. But all the staff always taught me very kindly. So I need not have worried about it.

I could spend a precious time with all the staff of Pacific Hotel and truly enjoyed working with you all. I will be trying to lead this experience into something positive.

Thank you, again.

平成 29 年度 夏期報告書

学部／学科：農学部 森林科学科 学年：2年 氏名：千葉 仁平
実習先：株式会社エマール
実習期間：平成29年8月20日～9月2日



1. 実習先の概要

- ・ ロンドウック工業団地 LIXIL 工場隣の野球場
- ・ ロンドウック工業団地内の Blue Dragon Construction 新設社員寮
- ・ エマールベトナム・Blue Dragon Construction
- ・ Asia Coconut Processing

2. 実習内容

- ・ 緑地管理業務
- ・ Asia Coconut Processing での現場見学
- ・ CAD の操作講習
- ・ エマールベトナム・Blue Dragon Construction 社員の方へ日本語講座
- ・ 営業業務に同行

2.1 実習スケジュール

- ・ 基本8：00～17：00まで 毎朝朝礼有
- ・ 実際の業務に同行することもあり、スケジュールが変更される場合もある

2.2 実習内容詳細

- (1) ロンドウック工業団地 LIXIL 工場隣の野球場
 - ・ 野球場の現場下見
 - ・ 1週間住み込みで働く際の新設寮下見
 - ・ 椅子などの清掃
- (2) Asia Coconut Processing での Blue Dragon Construction の業務見学
 - ・ 緑地管理業務に同行
- (3) CAD の操作講習
 - ・ 設計図から説明して頂き、詳細を知る
 - ・ エマールベトナムの社員の方から CAD の操作方法を伝授される
 - ・ CAD のテスト
- (4) 社員の方に日本語講座
 - ・ 告知用の用紙作成
 - ・ 講座の段取り作成
 - ・ 日本語講座

3. 実習の感想・学んだこと

約2週間の実習で最も印象に残っているのは、日本人の仕事への姿勢です。仕事に対する『食欲さ・根拠ある厳しさ・責任』これら全てが学生生活では見る事の出来ない魂でした。この姿勢は今後の

指標とするのには十分であり、私のインターンシップに参加する際の目標が達成されたので満足すると同時に、武器として修得するように努力したいと思います。

また仕事に対する姿勢で今後の参考になったのは、ベトナムの方々は仕事に対する姿勢・思想が日本人と全く違うということです。とても自由奔放であり、自己中心的です。驚くことしかできませんでした。私はそのような環境で実習をして日本とは全く違う環境でも日本人の仕事への姿勢は根を張ることはできるし、多少の憤怒を我慢することで戦っていけるということを学びました。

最も苦戦したのは、社員の方々への日本語講座でした。各々の日本語の熟練度が異なる中で、講座のお題・方法またその告知を行い、約1週間の日本語講座の中で言語を教えることの難しさを痛感しました。

実習における後悔は、自分から仕事や物事を探求できなかったことです。現状ある仕事を全うするだけでなく、自分で仕事を発掘し一生懸命に働き完遂することの重要性を改めて実感しました。

4. まとめ

今回のインターンシップで考えさせられたのは、海外の可能性です。私は当初、ベトナムは都市部でさえ閑散としていて都市とは呼べない程、開発が遅れていると思っていました。しかしそれは全く違って、都市部であれば高層ビルが連立し、都市部から離れても人々の活気で溢れていました。その中でも貧富の格差は見え隠れしますが、ベトナムの発展は私の想像を超えており、勢いがありました。日本の方が発展しているのは確実なのですが、勢いはベトナムの方が上回っているように感じました。数年後この世の中がどうなっていくか予想はできません。しかし、新興国の可能性の大きさを今回のインターンシップで感じる事ができたのは私の将来の大きな糧となりました。

ベトナムに大きな可能性を感じながらも、日本人であることへの誇りと自信を持つことができました。様々なことが日本とは異なっており一長一短ではありますが、日本の素晴らしさを実感し、私の考えに柱を建てることができました。

今回のインターンシップで経験した全てが今後活かされることであり、私は株式会社エマール様に参加志願してよかったと思います。またこのような機会があれば参加したいと思います。

5. 謝 辞

何から何までご指導頂き、本当にありがとうございました。早坂社長、山崎さん、阿蘇さん、清水さん、チイさん、イエンさん、アンさん、田中さん他にも多くの皆様にお世話になりました。感謝の気持ちを言葉では言い尽くせません。今回皆様から得たことや課題を吸収して精進していきます。本当にありがとうございました。

学部／学科：工学部 電気電子工学科 学年：2年 氏名：宮北 祥平
実習先：エマールベトナム、Blue Dragon
実習期間：平成29年8月20日～9月2日



1. 実習の目的

私が今回の夏期国際インターンシップに参加した目的は、今後人口減少が加速していく日本において文化の異なる外国人労働者と働く機会が増えていくと考えられるため、学生の間には様々な文化の人々の仕事に対する考え方、取り組み方を知りたいと考えたこと、また海外で働く日本人の生活を経験し、自分が適応することが出来るのか、海外での就職を選択肢にもって良いのかを知りたいと考えたためである。

2. 実習先の概要

株式会社エマールは栃木県小山市に本社を構える企業であり、総合人材サービス業などを行っている。エマールベトナム Blue Dragon はホーチミン本社を置くエマールグループの会社であり、エマールベトナムは住宅用建材の設計、Blue Dragon は緑地設・管理を中心に様々な業務を行っている。

3. 実習スケジュール・内容

日付	実習内容
2017 / 8 / 21	会社見学、Blue Dragon の業務内容説明、ロンドゥックでの実習内容説明
2017 / 8 / 22	ACP での緑地管理を見学
2017 / 8 / 23	ベンチの洗浄
2017 / 8 / 24	ベンチの洗浄
2017 / 8 / 25	ホーチミンに移動、日本語講座の準備
2017 / 8 / 28	ロンドゥックでの作業の経過を報告、1 回目の日本語講座
2017 / 8 / 29	エマールベトナムの業務内容・CAD の説明。ベトナム戦争証跡博物館見学
2017 / 8 / 30	CAD、日本語講座
2017 / 8 / 31	CAD、日本語講座、建築図
2017 / 9 / 1	CAD のテスト

3.1 ロンドゥックでの実習内容

実習の前半、ロンドゥック工業団地にある株式会社 LIXIL 工場内の野球場の約 20 脚のベンチの洗浄を任された。現地のベトナム人労働者のお手本となるような仕事をしてほしいと頼まれ、ペンキ、土を鉄製のブラシで磨く作業を行った。

3.2 日本語講座

実習の後半、ホーチミンにあるエマールベトナムのオフィスにて、ベトナム人の社員向けの日本語講座を開いた。エマールベトナム、Blue Dragon では日本語能力試験の結果によって手当

てを貰える制度があり、日本語に対しての関心が強いいため少しでも多くの言葉、日本の文化を印象に残せる講座にしたいと思い、日本人社員の出身地や株式会社エマールの所在地など出来るだけ興味を持てる話題を考え、講義した。

3.3 建築図、CAD

初めて建築図を見させていただき、エマールベトナムの業務内容と合わせて、説明していただいた。CADでは基礎から教えていただき、実務作業を経験させていただいた。

3.4 朝礼

エマールベトナムのオフィスでは毎朝 8:15 から朝礼があり 1 分間、当番の社員が日本語でスピーチをする。後半の実習期間の 5 日間毎朝スピーチをさせていただいた。

4. 実習の感想

私は、今回のインターンシップにおいて、日本人とベトナム人の仕事に対する意識・こだわりの違いを感じた。ペンキの塗り方、ペンキの養生など国が異なれば人々の考え方も異なることはわかっていたことだが、日本人ならばこだわることをベトナム人にわかってもらうことは難しく、特に Blue Dragon はベトナムにある日本企業の緑地管理が仕事であり、日本と同じクオリティを求められるため従業員に事細かに指示しなければならない大変さがあることを知った。また実習外でホーチミンを歩いているだけでも仕事に対する意識の違いを感じるがあった、たとえば、どのお店の店員さんも店員同士で私語をしながら仕事をしていることや接客の際に笑顔がないことである。この意識の違いを目の当たりにすることで日本の笑顔での接客はいい文化であると再認識することができた。

2 週間のベトナムでの生活は主に、衛生面、言語の問題があり、衛生面は徐々に慣れていくことが出来たが、言語の問題は大きく、日本語講座の際も細かいニュアンスを伝えることが出来ないことも多々あり、言語の壁というものを体感した。

5. まとめ

このインターンシップでは専攻している分野とは全く異なる仕事を経験させていただき、またベトナム人の考え方、ベトナムで働く日本人の生活を知ることができ、実習の目的を達成することが出来た。海外で働くということを経験でき、また言語能力など自分の足りない部分を見つけることが出来たととても充実した 2 週間だった。この経験を生かし、視野を広めて海外での就職・進学を考えていきたいと思えます。

6. 謝辞

今回のインターンシップではホーチミンのはずれにあるロンタンに宿泊することなど、サポートがなければできない経験が多くありました。現地での実習・生活をサポートしてくださった阿蘇様、清水様、チー様、イェン様、また実習の予定を組んでくださった山崎様、ベトナムでのビジネスについて教えてくださった早坂様、エマールベトナム、Blue Dragon の皆様、今インターンシップ担当の先生方に心より感謝申し上げます。

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：3年 氏名：門上 友紀
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年8月15日～9月14日



1. 実習先の概要

本社所在地：ベトナムハノイ市

事業内容：日本語学校運営、地方自治体等のプロジェクトマネジメント、企業コンサルティング、人材派遣、旅行手配など、日本とベトナムとをつなぐ事業を幅広く展開している。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール（下記参照）

表－1 実習スケジュール

日付	実習概要
8月15日	ホーチミン着
8月16日～17日	<ul style="list-style-type: none"> ・作業打ち合わせ ・POP作成 ・浴衣着付け練習 } オフィスにて作業
8月18日～9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・POP作成 <li style="width: 33%;">・店舗整理 <li style="width: 33%;">・集客イベント実施 <li style="width: 33%;">・商品動画作成 <li style="width: 33%;">・PR動画作成 <li style="width: 33%;">・Facebook更新 <li style="width: 33%;">・スタッフ教育
9月14日	帰国

2.2 実習内容詳細

(1) POP作成、店内装飾

私たちはアンテナショップ立ち上げからの参加だったため、ほとんど0の状態からショップを作り上げた。最初は商品を陳列するところから始まり、商品を目立たせるためのPOP作りや、お客さんが入りたくなるような店にするために店内の装飾を行った。POPは真面目なものではなく楽しい雰囲気のものにしてほしいと言われていたため、それを意識して作成した。次に、店内の装飾についてである。店舗立ち上げ当初、社長は「この店はきれいすぎる。」とおっしゃっていた。綺麗すぎるとお客さんが気軽に入りにくい、高級な店だと思われるということだ。言われてから周りの店の雰囲気と見比べてみると、私たちの店はたしかに少し敷居が高そうな雰囲気があった。そこで、商品をたくさん積んだり木の柱に折り紙で装飾をしたりすることで、お客さんが入りやすく、また親しみやすいようなショップにした。

(2) スタッフ教育

ショップに来たお客さんに接客をするのは主にベトナム人スタッフだ。私たちは、私たちがインターンを終えて日本に帰った後、スタッフが自分たちのみでショップを運営できるよう、接客の仕方や商品知識をスタッフに教えなければならなかった。その際に最も大変だったのが、互いの言語が通じないことである。私たちの話す日本語や英語はスタッフたちに理解してもらえず、反対にスタッフの話すベトナム語を私たちは理解できない。そのため、ハノイのスタッ

フが作成してくれたマナー動画を見せながら一緒にあいさつの練習をしてみたり、ケータイで翻訳アプリを用い商品の説明を行ったりした。加えて、商品へのシール貼りや商品の陳列・補充、冷凍庫の霜取りなどは自分をはじめにやって見せ、その後一緒に作業をすることでスタッフもすぐに覚えてくれた。

(3) 商品動画、P R 動画作成

定期的に行っていた業務に、商品動画の作成がある。商品動画とは、ショップで売っている商品を紹介する動画のことで、1つ30秒～1分程度の長さで作成する。作成したものは、宮城ショップのFacebookにその都度アップしていた。そのため、紹介するといってもただ商品の写真を流すだけではなく、より多くの人に見てもらえるようなものを作る必要があった。そこで、その商品を使ったレシピを紹介したり、実際に商品を食べている動画を撮ったりするなど、様々な工夫をした。

P R 動画とは宮城ショップをP Rするための動画で、こちらは3分程度のものを作成した。SNSでの波及を促進するため、日本にいる友だちや、実際にショップに来店してくれたお客さんに写真の協力をしてもらった。作っている間に多少の変更はあったものの、大きなテーマや曲などは自分たちで考え、納得のいくものを作ることができた。

3. 実習の感想・学んだこと

今回のインターンシップを通して学んだことはたくさんあるが、ここでは特に印象に残っている二つについて述べたい。

一つ目に、自分の長所と短所を知ることができたことである。今までにも自分の長所と短所について考える場面や、それらを客観的に指摘される場面はいくつかあった。しかしながら「会社で働く」という環境の中で自分の長所と短所を知ることができたことはとても良い機会だったと思う。社長がおっしゃってくださった私の長所は行動力があること、短所は優先順位が不明確であることだ。この短所は正直自分ではあまり意識したことがなかった。しかし、言われてから気が付いたのだが、私は指示を受けたことをすべてやり遂げる前に、自分の中で今これをする必要がある、と思ったらそちらの作業を優先してしまっていたことが何度かあった。指摘を受けてからは、朝にその日のうちにやるべき作業は何かを考え、優先順位をつけるようにした。自分ではなかなか気付くことのできない短所を知り、またそれを改善する努力ができたことは貴重な経験だった。

二つ目に、別の角度からものを捉えてみることの重要性だ。土日の集客イベントとして、初めの2週間はいくつかの商品の試食を行っていた。しかし、試食が売り上げに結び付いたという実感はなかなか得られなかった。そのような状況をどのように改善したら良いか考えていたとき、社長から「試食はとりあえず一度ストップして、次は違う角度からアプローチしてみては。」と、助言をいただいた。私たちは、別の方法を考えることよりもどの商品を試食に出したら良いか、また試食の場所や出し方などに焦点を当てて考えてしまっていた。しかし、試食だけが方法ではない。当然のことではあるが、試食にはコストがかかる。いかにコストをかけずに商品を売るか、といった観点から、商品を山積みにして置いてみることや、おすすめ商品が一目でわかるようなPOP作り、商品の配置変えを実施した。

4. まとめ

私がこのインターンシップに参加した理由は大きく二つある。第一に「海外で働く」というイメージを明確にしたかったため。第二は、ベトナムで生活してみたかったためだ。

まず「海外で働く」ということについて。私は将来、日本と海外を行き来する仕事に就きたいと漠然と考えているが、あくまで漠然としたイメージのままであった。しかしこのインターンシップを通し、わずか一か月ではあったが実際に海外で働き、また現地で働いている日本人から様々な話を聞いたことで、以前に比べ「海外で働く」ことに対する具体的なイメージを持つことができた。

次に、ベトナムで生活ができたことも私にとって貴重な経験だった。3月まで通っていた短期大学でベトナム人技能実習生について卒業論文を書いたこともあり、私は日本とベトナムとのつながりに興味を持っていた。今回ベトナムで実際に生活をしたことで、ベトナムで働く日本人の存在や、日本製のバイクが街中を走っていること、スーパーに日本の調味料が大量に並べられていることなど、日本とベトナムとのつながりを自分の目で見る事ができた。

一ヶ月間のインターンシップ、ベトナムでの生活は驚くことも多々あったが毎日が新鮮で楽しく、何より自分自身の成長を感じることができた。この有意義な一ヶ月を忘れず、自分自身の今後のキャリア形成に活かしていきたい。

5. 謝 辞

この度、私たちを温かく迎え入れてくださった箕田社長、アキ様をはじめ、親身にご指導をしてくださった長谷川様、仕事面・生活面ともにサポートしてくださった河端様、ならびに社員、ショップスタッフの皆様へ心より感謝いたします。至らぬ点の多かった私ですが、皆様からアドバイスをいただきながら一か月間楽しく過ごすことができました。インターンシップを通して学んだこと、いただいたお言葉を大切に、今後も精進してまいります。このような素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



写真1 作成したPOP



写真2 浴衣を着用した営業



写真3 ショップオープニングイベントの様子



写真4 店頭風景

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：3年 氏名：藤田 萌々夏

実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.

実習期間：平成29年8月15日～9月14日



1. 実習先の概要

本社所在地：ベトナム、ハノイ市

事業内容：プロジェクトトータルコーディネーターや日本企業への総合サポート、調査・コンサルティングサービスなど幅広い事業を行っている企業である。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日
	13:30 ホーチミン着	作業打ち合わせ・商品情報の確認・ポップ作成	ポップ作成・スタッフの研修・Face book更新	店舗整理・イベント準備・ポップ作成	ショップオープニングイベント・動画撮影(PV)	休み
8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日	8月26日	8月27日
休み	店舗整理・商品紹介動画作成	打ち合わせ・店舗装飾作成	店舗にある在庫の確認・ポップ作成	店舗にある商品個数の確認・週末のイベント企画・ポップ作成・Face book更新	試食イベントの実施・ポップ作成	打ち合わせ・商品紹介動画作成・Face book更新・PV動画の企画
8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日
休み	休み	店舗装飾の作成・PV動画の作成・Face book更新・店舗の在庫確認	店舗装飾の作成・PV動画の作成・Face book更新・週末イベントの企画	店舗装飾の作成・Face book更新・売上表の作成	売上表の作成・賞味期限の確認・PV動画の素材収集	賞味期限の確認と在庫リストへの反映・ラベルシールの整頓・販売数の分析と共有・売上表の工夫
9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日
休み	休み	PV動画の作成・売上表の記入・売上表の修正と提出	PV動画の作成・売り上げ表の記入	PV動画の作成・商品管理の引継ぎ	PV動画の作成(PV動画の曲決め、PV動画の流れの見直し)	PV動画の作成(PV動画の曲の替え歌作成と録音、ドラフトの提出、ドラフト提出後の修正)
9月11日	9月12日	9月13日	9月14日			
休み	休み	予備日	0:15 ホーチミン発			

2.2 実習内容詳細

BMFのホーチミン支店では、『ベトナム宮城県産品マーケティング支援事業』と『ベトナム和食レストラン等「Miyagi Week」事業』の二つの事業を実施している。この二つの中で、私たちが実際に関わった事業は、『ベトナム宮城県産品マーケティング支援事業』である。この事業では、宮城県の予算でAEON MALL タンファーセラドン店内の宮城ショップにおいて宮城県産品(約100種類)を販売、PRを行うというものである。

主な業務は、商品管理、販売スタッフへのマナー指導、週末のイベント企画、店内装飾、Facebook更新、商品動画作成、PV動画作成などであった。実習の初めの方は、主に店内の装飾とFacebookの投稿を行った。私は実習の中盤からは、特に商品管理とPV動画作成を担当した。

商品管理では、在庫の確認と賞味期限の確認などを行ったり、売り上げと販売数のリストの作成を行い、そこから商品の売れ筋などを分析し共有したりした。PV動画の作成で



図1 店舗の様子



図2 スタッフとの集合写真

は、宮城ショッップのPRに繋がる動画作成として、3分程度の動画を作成した。

3. 実習の感想・学んだこと

私がこのインターンで学んだことは、まず、コミュニケーションの取り方についてである。ベトナムではほとんど英語が通じず、最初の方はベトナム人スタッフとの言語の壁を感じ、コミュニケーションをとることが難しく感じていた。しかし、途中から言語が通じない中でも、体を使って一生懸命伝えようとすれば、相手も一生懸命理解しようとしてくれたり、一生懸命伝えようとしてくれたりすることが分かり、ベトナム人スタッフとコミュニケーションを取ることが楽しくなった。コミュニケーションというものは、言語が通じなくても取れるものなのだと感じた。

次に、挑戦することの大切さである。私は積極的な方ではないため、自分から話しかけたりすることや、挑戦してみることが苦手であった。そのことをBMFの方に見抜かれ、今回のインターンでは自分の殻を破ってみようと思言があったので、自分なりに様々なことに挑戦してみようことを心掛けた。今までやってこなかったようなことをやってみることで、自分のできることの幅が広がったと感じている。これにより挑戦することの大切さを学んだ。

最後に、働くことの大変さについてである。私は、インターンの後半にPV動画の作成を行っていたが、なかなかOKをもらうことができず、業務終了日の最後の最後まで修正を行っていた。自分の中で完璧だと思っても、それが傍から見れば修正すべき点がたくさんあり、仕事は最後まで最善を求められるものなのだと実感した。最後まで最善なものを作成しようとすることで、出来上がった時の達成感はとても大きなものであった。そのため、働くことの大変さとともに、仕事をする楽しさも同時に学ぶことができた。

4. まとめ

今回のインターンシップには、就職に向けての職業選択の幅が広がればよいと考え参加した。私は今、大学三年生で来年には就職活動が始まるが、働くということの実感がなく、就きたい職業が決まっていなかった。また、自分の長所などもわからず、自分を見つめなおすきっかけとなればとも考えていた。今回、BMFさんでインターンシップを体験させていただいたことで、海外で働くということ、短い期間ではあるが経験することができたと思う。また、社会に出たときのことも教えていただいた。ポジティブに生きること、相談する人を間違えないこと、やりたいことと求められることのギャップなど、これらの事を今後忘れずに生活していきたいと思う。

5. 謝辞

今回、私たちを受け入れてくださったBMFの箕田社長をはじめ、アキ様、長谷川様、河端様、そしてベトナム人スタッフの皆様、大変お世話になりました。このインターンシップではたくさんのことを得ることができ、毎日が新鮮で充実した一か月間を過ごすことができました。深く感謝申し上げます。今後、貴社で得た経験を活かし、社会人として立派になれるよう尽力していきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：3年 氏名：須田 愛
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年9月1日～9月27日



1. 実習先の概要

実習先：ベトナム（ホーチミン）

事業内容：Project Total Co-ordination / プロジェクトトータルコーディネート
 Total Support to Japanese companies / 日本企業への総合サポート
 High-quality Translation Service / 高いレベルの通訳・翻訳サービス
 Research & Consulting Service / 調査・コンサルティングサービス
 Personnel Consultation / 人材派遣サービス
 Travel Services / 旅行手配サービス

2. 実習内容

- ・在庫表記入
- ・売上表記入
- ・在庫表と売上表の研究、改善
- ・輸入量の思案
- ・ポップ作成
- ・商品販売
- ・商品陳列の工夫
- ・Face book 更新
- ・動画作成

2.1 実習スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
				9月1日	2	3
				HC着	集客イベント (独立記念日) 打ち合わせ	集客イベント (独立記念日) 動画撮影 (PV)
					早番	早番
4	5	6	7	8	9	10
店舗整理 接客マナー 動画作成	店舗整理 接客マナー 動画作成	休み	休み	店舗整理 接客マナー 打ち合わせ	集客イベント (中心) 引継ぎ	集客イベント (中心) 引継ぎ
早番	早番			遅番	早番	遅番
				※ハノイ終了		
11	12	13	14	15	16	17
休み	休み	接客マナー 商品配置研究 動画作成	接客マナー 商品配置研究 動画作成	接客マナー 商品配置研究 動画作成	集客イベント (中心)	集客イベント (中心)
		※HC1終了				
18	19	20	21	22	23	24
休み	休み	調査結果作成 →提出 接客マナー 動画作成	レイアウト変更 ポップ掲示 接客マナー 動画作成	レイアウト変更 ポップ掲示 完成・報告 接客マナー	集客イベント (中心)	集客イベント (中心)
25	26	27	28	29	30	
休み	休み	成果物の完成 (動画・報告書) 講評 報告提出	空き日	HC発 (0時15分)		

2.2 実習内容詳細

(1) 在庫管理や売上表の仕事

日々の基本作業として、在庫表と月別売上表（表1参照）と週別売上表に日々の売り上げを記入した。また在庫表と2つの売上表をより良いものにするために、試行錯誤した。最終的には、売上表に賞味期限を追加し、売上表と在庫表を統合した。今までは、売上表にも在庫表にも売上を打ち込む必要があったが、その二つの表を統合することで、売上表のデータを在庫表に自動反映することができるようになったため、時間削減につながった。そして、輸入量も考えやすくなった。また、毎日見る売上表に賞味期限を追加したことで、賞味期限が近い商品の対策を前もって考えることができるようになった。これらの仕事は、将来輸入業につきたいと考えている私にとって、とても参考になった。

	8月売り上げ	9月売り上げ	10月売り上げ	11月売り上げ	12月売り上げ						
					8月19日		8月20日		8月21日		
					土	日	月	日	月	日	
					総計 (VND)	総計	金額	総計	金額	総計	金額
M-01	スナック1パンバン(snack1bb)										
M-02	出る オレンジドリンク(orange ataru)										
M-03	出る サイードドリンク(lemon ataru)										
M-04	10本 チョコスナック										
M-05	8本 チョコスナック (イチゴ)										
M-06	コアラ学園フルーツドリンク(koara fruit)										
M-07	コアラ学園ミックスドリンク(koara mix)										
M-08	コアラ学園ミニゼリー(thanh mini)										
M-09	喜久福生クリーム大福(creamdaifuku)										
M-10	喜久福抹茶生クリーム大福(macha-cream)										
M-11	喜久福ずんだ生クリーム大福(zunda-cream)										
M-12	どら茶ん小倉抹茶生クリーム(dorachan ogura)										
M-13	どら茶ん抹茶生クリーム(dorachan matcha)										
M-15	バックごはん ひとめぼれ(com hitomobore)										
M-16	切りもち 400g(rice cake)										
M-17	熱湯3分うす切りもち(susugiri mochi)										

表1 月別売上表

(2) ショップでの仕事

宮城の商品を取り扱うアンテナショップでは、ベトナム人スタッフと協力して、商品の販売や商品の売り上げ向上を狙った仕組みづくりを行った。例えば、ポップを作る際には、ベトナム人スタッフに翻訳してもらい、また、ポップの写真を作る際には一緒に選ぶなどした。その中で、ベトナム人と日本人の感覚の違いや日本商品をどのようにアピールするといったのを知ることができた。



写真(2)1 アイス (KEM) のポップ



写真(2)2 ベトナム人スタッフとの集合写真

(3) Facebook 更新

Facebook 更新は毎日2回で、最初は商品紹介の動画を投稿していた。後半にはお店の雰囲気やお店に来て下さったお客様の写真を投稿していた。商品紹介の動画は、動画編集能力や、どうすればベトナムの方に日本の商品の良さが伝わるものになるか試行錯誤した。そして、お客様の写真を撮る際には、スタッフと協力して、写真を撮っていた。

3. 実習の感想・学んだこと

この実習を通して学んだことを大きく二つあげたいと思う。まず、一つ目の問題を自ら発見することの大切さであり、社会人は問題を与えられるのを待つのではなく自分で問題を見つけて改善していかなければならないということである。最初の二週間、私は社員さんに言われたことをしているだけで、無意識に何をするのも受け身の体制になっていた。そして何をすればいいかわからない状態に陥る時期があった。しかし、社長や社員の方々の話を聞くことで、社会人というのは自分で日々問題を見つけていき、改善していくことが大切であると気づいた。そして後半二週間では、もっとこうしたほうがいいのではないかなどと考え、積極的に行動に移すことができ、成長できたと思う。

次に二つ目のコミュニケーションしようとする意欲である。今回のインターン先のベトナムでは、公用語がベトナム語ということもあり、英語があまり通じなくコミュニケーションが難しかった。しかし、言語が通じなくても、コミュニケーションしようとする気持ちが一番大切であると感じた。

4. まとめ

私は、このインターンシップは自分にとってとてもいい機会になったと感じる。理由は二つある。一つ目は、自分の礼儀正しさに欠けていると分かったからである。今まで、自分はいいさつや敬語はできているつもりであったが、できていないことに気付いた。これは今後の生活や社会に出たときにとても基本となることなので、しっかり改善していきたい。

二つ目は、海外における日本商品の需要を見ることができたからである。将来、貿易業務に携わりたい私にとって、どんな商品が売れているのかまた、なぜその商品が売れるのかなど、実際に見たり、聞いたりすることがとても面白く、海外インターンシップならではの良さだと感じた。

5. 謝 辞

今回、お忙しい中、私たちをインターンシップ実習生として受け入れてくださり、また指導してくださり、誠にありがとうございました。箕田社長、あき様はじめ、社員の皆様、ベトナム人スタッフの皆様、大変お世話になりました。この一か月のインターンは私にとってとても充実しており、得られるものも多かったです。それは皆様の手厚いサポートのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。このインターンシップで学んだこと、反省したことをこれからの大学生活および社会人生活に活かし、より良いものにしていきたいと思います。今後ともよろしく願います。

学部／学科：国際学部 国際文化学科 学年：3年 氏名：太田川 実沙
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年8月10日～9月8日



1. 実習先の概要¹⁾

所在地：ベトナム、ハノイ市

事業内容：各種イベントコーディネートや日本語学校運営を中心に、プロジェクトトータルコーディネーターや日本企業へのサポート等、幅広い事業に携わっている。お客様のあらゆるニーズに応えることや文化のギャップを埋めることを目指し、新しい分野への挑戦も続ける企業である。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
8月7日	8	9	10	11	12	13
			ハノイ発	ミーティング 今後の打ち合わせ FB更新、マナー動画	Times City (2) HQV (2) (成果動画)	Hai Phong (太田川)
						休み (小野寺)
14	15	16	17	18	19	20
教材作成 動画作成	教材作成 動画作成 初級2 (小野寺)	教材・動画作成 中級クラス (太田川)		教材・動画作成 子ども模擬	Lang Ha (小野寺) 佐々木 (太田川)	Hai Phong (小野寺)
	午後出勤 (小野寺)	午後出勤 (太田川)				
	休み (太田川)		休み2名			休み (太田川)
21	22	23	24	25	26	27
教材作成 動画作成	教材作成 動画作成 初級2 (太田川)	教材・動画作成 中級 (小野寺)		教材・動画作成 子ども模擬	Times City (小野寺) Lang Ha (太田川)	Hai Phong (2名) (成果動画)
	午後出勤 (太田川)	午後出勤 (小野寺)				
	休み (小野寺)		休み2名			
28	29	30	31	9月1日	2	3
教材作成 動画作成 手大訪問	教材作成 動画作成 初級2 (太田川)	教材作成 動画作成		教材作成 動画作成 中級 (小野寺)	教材作成 動画作成	
	午後出勤 (太田川)			午後出勤 (小野寺)		
			休み2名			休み2名
4	5	6	7	8	9	
	教材作成 動画作成 企業 (小野寺) 初級2 (太田川)	成果物の提出 講評	休み2名	ハノイ発 (朝8時)		
休み2名	午後出勤 (太田川)					

※通常出勤＝ 8：00～17：00 (休憩1時間)

午後出勤＝ 11：00～20：00 (休憩1時間) (18：00～20：00は授業)

2.2 実習内容詳細

(1) PV作成

ベトナムと日本、世界のつながりをテーマに、日本語を勉強したくなるような内容の



写真1 PVのサムネイル画像



写真2 PVの一場面

動画を作成した。ベトナム、日本、世界各国の笑顔の写真を中心に、様々な場所の景色の写真や動画をつなぎ合わせ、笑顔でつながる世界を表現した。また、簡単な日本語の歌をBGMにすることで日本語を学習する子供に何度も見て口ずさんでもらえるようにした。

(2) 接客マナー動画作成

ホーチミンのイオンモールで開催中の宮城アンテナショップで働くベトナム人スタッフに、接客方法の悪い例と良い例を教える動画を複数作成した。内容は、姿勢やあいさつ、こまめに掃除をすること、お客様への声のかけ方など。ホーチミンのインターン生と連絡をとったり、担当の方からアドバイスをいただいたりしながら、どのような点を教えるべきなのか考えて構成・撮影・編集を行った。日本語と英語がわからないベトナム人スタッフにも理解してもらえるよう、ハノイのオフィスで働くベトナム人スタッフに翻訳を依頼し、字幕をつけた。

(3) 宮城ショップ商品紹介動画作成

宮城アンテナショップで販売中の商品を紹介する動画を作成した。ベトナムの人に具体的な食べ方を説明することや、ホーチミンにいる日本人に商品の長所をアピールすることを主な目的と考え、誰にでもわかりやすいシンプルな言葉づかいと内容を心がけた。

(4) 子供クラス教材作成

子供クラスで使用する教材を2つ作成した。1つはひらがなカード、もう1つはしりとり動画である。ひらがなカードは2セット作成し、レベルに合わせて遊び方に幅を持たせられるようにした(写真3)。競い合う遊びを好むクラスではゲームに使う、ゆっくり進めたいクラスではカードに書いてある言葉を読むなど、同じ教材でもクラスによって有効な使い方が異なることが印象的であった。しりとり動画は、ストップモーションやコマ撮りを取り入れ、飽きずにみられるよう工夫した。この動画をみながら生徒が解答するプリントは2種類作成し、レベルに合わせて使い分けられるようにした。



写真3 ひらがなカードを使った授業

(5) 日本語学校の授業

あき日本語学校の授業として、子供クラス・初級2・中級クラスの授業を担当させていただいた。子供クラスでは、おもにあらかじめ用意されているスライドに沿って授業を進めた。また、子供たちの成果動画撮影の補助も行った。初級2・中級クラスでは、テキストに沿って授業を進め、それに加えて読解用の資料を作成して使用した。全てのクラスに共通して、クラスごとの雰囲気やレベルを把握しそれに合わせて授業を進めるのは大変であったが、生徒や学生が少しずつ授業を楽しんでくれるようになることにやりがいを感じた。



写真4 スライドを使った授業



写真5 かるたを使った授業

3. 実習の感想・学んだこと

この1ヶ月間で、普段の大学生活では分からないであろうことを多く学ぶことができた。まず、自分が何を求められているのかを明確にすることの大切さである。今回の実習では、自分たちで何かを生み出すというタスクが多くあった。動画や教材作成等である。もちろん、先入観にとらわれずオリジナルなものを生み出すことは重要であるが、それが求められているものから著しく逸れてしまっていると、仕事として優良とはいえない。故に、タスクを与えられた時点で最低限のイメージ（テーマや目的、ターゲット等）を共有しておくことが必要である。しかし、私はそれをわかっていなかったため、PVや商品紹介動画におけるテーマやターゲットが不明瞭なまま、十分な確認をせずに作業を進めてしまっていた。それが原因となり、PVをもう完成させたいという時期に認識のズレを感じ、作業が進まなくなってしまう。そこでテーマを明確にして動画の方向性を一転させたことで結果的には成功につながったものの、テーマや目的、ターゲットが不明瞭なまま作業を進めることは、非効率的であった。そのタスクで自分は何をすることを求められているのか、理解できなかつたら速やかに質問をして、ある程度の認識を共有することが作業の効率化につながることを学んだ。2点目に、方向性の転換の有用性である。先ほど少し触れたように、PV作成において一度大きく方向性を変えた時期があった。その時期は何をしてもPVがうまくいく気がせず、思い悩んでいた。しかし、作成途中の動画を教材用に切り替え、全く異なる視点から新たにPVを作成し始めた途端、PVはスムーズに作業が進み、教材用に切り替えた動画もうまく完成させることができた。まっさらな状態に戻して作り直すことは怖い勇気がいるけれど、どうにも立ち行かなくなったときには一つの解決方法であることを学んだ。この他にも、業務の分担による作業の効率化や、業務以外では、言葉が通じない場所での生活の仕方等、本当に多くのことを学ぶ機会となった。

4. まとめ

今回学んだことは、今後の学生生活および将来の仕事において大いに役に立つと思う。まず、求められていることを明確にするということは、実習で行ったような何かオリジナルなものを生み出すという業務ではもちろん、資料作成やプレゼンテーション等、社会生活では必要な場面が多いと考えられる。自分の中の理想やイメージの具現化ばかりを追求するのではなく、適宜認識を共有しながら作業を効率的にこなしていきたい。また、方向性の転換の有用性については、何においても迷ったり壁にぶつかったりして立ち行かなくなったときにこの経験を思い出して、問題を解決していきたい。

以前から興味を持っていた日本語教育では、若干の苦手意識を抱いていた子供への授業も経験してみたら本当に楽しくて、長期に渡って子供たちの成長を見られたらきっとやりがいを感じられるのだろうと思った。反面、大学の講義で日本語学習における様々な教授法を学んでも実践となるとそれらを活用することは非常に困難であることを痛感した。現在は就職先として公務員と民間の両方を考えているが、今回の実習での経験が、将来的には日本語教師または日本語教育に関わる職に就くことも視野に入れようと思うきっかけとなった。

5. 謝辞

この度はご多忙の中、インターンシップという貴重な経験の場を設けていただき、ありがとうございました。あたたかく受け入れてくださった簗田社長、あき様、担当してくださった長谷川様、ならびにBMF社員の皆様に、深く感謝申し上げます。今回のインターンシップでの経験や学びをいかし、成長していけるよう精進して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

6. 参考

(1) BMF ホームページ <http://bmfglobal.com/profile.html2020/01/31> 閲覧

学部／学科：国際学部 国際文化学科 学年：3年 氏名：小野寺 未早
 実習先：BMF Global Trade & Consulting Service Co.,Ltd.
 実習期間：平成29年8月10日～9月8日



1. 実習先の概要

本社所在地：ベトナム、ハノイ

事業内容：プロジェクトトータルコーディネーター、日本企業への総合サポート、高いレベルの通訳・翻訳サービス、調査・コンサルティングサービス、人材派遣サービス、旅行手配サービスなど日本と世界を結ぶ事業を幅広く展開している。

2. 実習内容

日本語教育、マナー動画作成、Facebookの更新、PR動画作成

2.1 実習スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
8月7日	8	9	10	11	12	13
			ハノイ着	ミーティング 今後の打ち合わせ FB更新、マナー 動画	Times City (2) HQV (2) (成果動画)	Hai Phong (太田川)
						休み (小野寺)
14	15	16	17	18	19	20
教材作成 動画作成	教材作成 動画作成 初級2 (小野寺)	教材・動画作成 中級クラス (太田川)		教材・動画作成 子ども模擬	Lang Ha (小野寺) 佐々木 (太田川)	Hai Phong (小野寺)
	午後出勤 (小野)	午後出勤 (太田)				
	休み (太田川)		休み2名			休み (太田川)
21	22	23	24	25	26	27
教材作成 動画作成	教材作成 動画作成 初級2 (太田川)	教材・動画作成 中級 (小野寺)		教材・動画作成 子ども模擬	Times City (太田川) 佐々木 (小野寺)	Hai Phong (2名) (成果動画)
	午後出勤 (太田)	午後出勤 (小野)				
	休み (小野寺)		休み2名			
28	29	30	31	9月1日	2	3
教材作成 動画作成 宇大訪問	教材作成 動画作成 初級2	教材・動画作成 中級 (1名)		教材・動画作成 子ども模擬	子どもクラス 佐々木クラス	
	午後出勤1名	午後出勤1名				
			休み2名			休み2名
4	5	6	7	8	9	
	教材作成 動画作成 初級2	成果物の提出 訓評	休み2名	ハノイ発		
休み2名	午後出勤1名					

2.2 実習内容詳細

(1) 共通する課題

①学校のFacebookの更新

日本語教室のFacebookに日本の紹介などをした。

②日本語学校クラス主担当：子供クラス、中級（新聞・会話）、初級2、佐々木クラス（交代制）

事前に作成されたパワーポイントをもとに授業を行う。パワーポイントに沿った応用例などを事前に準備し授業に臨む。さまざまなレベルの日本語クラスを交代で担当し多くの生徒と触れ合った。

(2) 「ベトナムと日本をつなぐ交際交流を実現しよう」

①ベトナム人とのコミュニティ形成、学校PV動画企画・完成

※ホーチミンシティ（HC）で行っているインターンの協力

※学校の顔となるPV動画を集大成として完成させる。

日本と世界をつなぐ、テーマを「えがお」とし作成した。知り合い、街にいるひとやスタッフなど多くの人に協力を募り動画を完成させた。



写真1 現地スタッフとの交流



写真2 踊りに協力してくれた少年たち

(3) 学生2「日本の文化・マナーをベトナムに紹介しよう」

①ホーチミンのイオンモールに出店している「宮城ショップ」用のマナー動画企画・完成（主担当）1週間に1本

※前半：マナーの基本を完成させ、HCに送る。

※後半：HCインターン学生と打ち合わせ、必要なものを作成。

ベトナム人に接客、マナーを教えるための講習動画を作成した。お辞儀や姿勢、歩き方、立ち方などの接客態度から、冷凍庫の霜の取り方まで、宮城ショップやそのほかにも役立てられるような内容のものを完成させた。

②宮城PR動画

宮城ショップ用やFB用に宮城に行きたくするような、宮城の商品を買いたくするような宮城の紹介動画を作成した。見る人が引き込まれるようなワクワクするような動画为目标に8本動画を完成させた。

③子供クラス教材（ひらがなを使ったゲーム）

子供クラスのためにひらがなカードを作成した。50音と絵を描いたカードを2組作成し、神経衰弱などゲーム形式で楽しく日本語を学ぶための教材にした。

長く使えるよう画用紙を二重にしたり、透明なテープでコーティングしたり補強も行った。

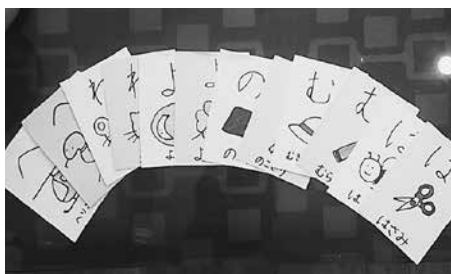


写真3 ひらがなカード



写真4 ひらがなカードを使用している様子

3. 学んだこと

一つ目は、伝えることの大切さだ。ベトナムでは言語が通じないため自分なりに工夫して相手に伝えなければならない。普段の業務などで、日本語が通じるスタッフとコミュニケーションをとる際も敬語などていねいな言葉を使っていたが、相手のためにもわかりやすく、簡単な日本語を話し

たほうが伝わりやすいということがあった。それは授業の時も同じで、簡単な日本語で指示することが必要だった。言語以外にも文化が違うため伝えかたを考えなければならないと思う場面が多くあった。日本では接客をする際に当たり前なこともベトナムでは異なる。立ち方、お客さんの前でふるまい方など自分たちが当たり前と思い、動画にしなくてもよいと思っていたことも、ベトナム人向けに動画を作成するならば工夫が必要であった。相手や環境によってコミュニケーションの仕方、伝えかたも考え、変えなければならないということを感じた。

二つ目は、海外で働くこととはどういうことか学んだ。生活環境はもちろん、働く環境も日本とは全く違った。また、日本人と現地の人との役割が異なることを学んだ。また海外だけではなく「働く」ことについても考えさせられた。現在はお金を払って学んでいる立場だが、今度はお金をもらって働くことになる。そのためには成果を上げなければならない。また、その成果は大学のように成績で秀を目指すだけでは不十分であることに気づかされた。会社では一番を目指すなければならない。何か一からつくる際、秀を目指すのと一番を目指して取り組むのでは出来上がりも変わってくるため、新たに考えさせた。

4. まとめ・感想

最初は具体的な目的をもってこのインターンシップに応募したわけではなく、ただ漠然と海外で働くとはどういうことか実際に体験してみたいと思い応募した。実際の業務を通じて現地の人など多くの人と交流することができた。また、普段大人の人と長くお話しをする機会がないが、このインターンシップでは業務外でも会社の人とお話しする機会が多くあったため新たな考え方など私にとって大きな刺激を受けた。生活面では観光では経験できないようなことをたくさん体験した。日々の新しい発見は多く、新鮮な毎日を過ごすことができた。

1 か月は長い期間だと思っていたが、実際はあっという間のインターンシップだった。b.m.f. で幅広い業務を体験できたことで曖昧だった自分の興味をはっきりすることができたため、これから就職活動をするにあたって役立つことが多くあると思った。うまく言葉にはできないが、将来につながる有意義な時間を過ごすことのできた一か月だった。

5. 謝 辞

一か月間私たちをインターンシップ生として受け入れてくださった b.m.f. の皆さま、大変お世話になりました。たくさんのためになるお話をしてくださった簗田社長、素敵な手帳をくださったアキさん、実習準備から実習期間中私たちの面倒を見ていただいた長谷川さん、様々な助言をくださった社員の方、業務のサポートをくださったベトナム人スタッフの皆さまのおかげで充実した日々を過ごすことができたこと、深く感謝いたします。貴社での経験は今後に生かし、自分自身の成長に結びつけられるよう精進して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



写真5 ハノイの夜景



写真6 オフィスからの景色

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：3年 氏名：椎名 史織
実習先：CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.
実習期間：平成29年8月29日～9月8日



1. 実習先の概要

所在地：700/147,Moo 1,Amata Nakorn Industrial Estate,
Tambol Ban Khao, Amphur Panthong, Chonburi, Thailand
事業内容：Fabrication, Assembly, Painting and Screen of Injection Molded Plastic Part
(精密エンジニアリングプラスチック金型及び成形品の製造、販売)

2. 実習内容

オリエンテーション、工場見学、人事・総務部署の業務内容の説明・体験、改善提案

2.1 実習スケジュール

8月29日 オリエンテーション、工場見学（組み立て体験）
8月30日 労働法について学ぶ
8月31日 新入社員採用工程について学ぶ
9月1日 業務訓練の工程について学ぶ
9月4日 総務部の業務内容について学ぶ
9月5日 Manager Meeting と Monthly Meeting に出席
9月6日 会社の安全・環境について学ぶ
9月7日 改善提案考察、プレゼンテーション準備
9月8日 プレゼンテーション（改善提案）

2.2 実習内容詳細

(1) 人事部の業務内容

人事部の業務内容として、今回は労働法と新入社員採用工程について学んだ。労働法については、日本の労働法を元に作られているとの事だったため、日本でもよく耳にするような内容が多かった。一方で、タイ特有の祝日休暇や、その他怪我や病気、育児、出家などに対する処置を知り、また平日と休日、正社員と派遣社員における残業代の違いについても学んだ。その知識を元に、社員の月収計算（残業、育児休暇などを考慮した）を実際に体験した。次に、新入社員採用工程についてだが、ここでは会社が希望する職員の情報や会社の詳細などをタイの求人サイト Job Thai に掲載し、そこに登録している求職者の中で、会社の希望する条件に合った人材を見つけ、メールを送る。私自身も、実際に独自の条件を設定しサイトで探すといった一連の流れを体験させて頂いた。

(2) 総務部の業務内容

総務部の事業内容としては、業務訓練の工程やその他細かい業務を学んだ。まず、業務訓練について、これは社員のスキルアップを狙ったものであり、各部署で社員に必要と思われる専門知識や技術などを学ばせるものである。社員に業務訓練を受けさせるためには、各部署でど

のような訓練が、いつ誰にどこで必要なのかなどを記載した書類を提出し、訓練詳細を書いた書類の提出、受講後は訓練の記録を残すというような手順がある。こうした業務訓練の工程を学び、それを元に各部署を回って、8月の訓練記録の書類を見せてもらい、内容の確認をした。その他にも、総務部では、毎日朝と昼に、敷地内や社員食堂、工場内、オフィスなどの見回りを行っており、駐車場の管理、会社の設備が整っているか、仕事上で何か困ったことはないかの調査（設備上の問題点）などをした。それ以外には、会社の車の管理（台数確認、使用時間調整、運転手の残業の有無など）や、会社貸出の携帯電話の支払い・記録、社員や来客時のホテル・車等の手配、日本人社員のビザ更新の手続きといった、会社全体を上手く回すための細かな業務があるということを学んだ。私自身が実際に体験したものは、見回り、運転手の残業計算、携帯電話使用料の Excel への打ち込みなどである。また、人事・総務部の中にある、会社の安全・環境の部門では、ごみ（分別ごみや、作業過程で出る危険ごみなど）がきちんと管理されているか、工場から流れる水は規定の範囲内の数値に収まっているか、作業中に事故は起こっていないか、避難訓練時の集合場所の確認、会社の安全・環境に関する規則などについて学んだ。

(3) Manager Meeting と Monthly Meeting

Manager Meeting は毎朝開かれ、各部署の現状報告とその日の予定の確認が行われる。そして、実習期間中の9月5日は月に一度の Monthly Meeting が半日かけて行われた。Monthly Meeting では、各部署の業績報告を受け、マイナスやプラスになっている数字の原因説明や今後の改善のための意見交換が行われていた。インターン生の私たちは、出席してただけであったが、最後に会議に出席した感想を簡単に述べた。

(4) プレゼンテーション (改善提案)

実習最終日には、各部署のマネージャーに会議室に集まって頂き、20分～30分のプレゼンテーションを行った。発表内容は、実習をしながら考えてほしいと事前に言われていた、①工場のごみ処理方法、②休憩室の改善、そして③会社の玄関・靴箱の改善の中で、①と③を選び、改善提案を考え、Power Point にまとめ、発表した。以下は、実際に提案した内容、資料の一部である。



図1 ごみ分別に関する改善提案



図2 玄関・靴箱に関する改善提案

3. 実習の感想・学んだこと

今回の私の一番の目標はタイ語を使って言語の能力の向上を図る事であり、このインターンシップの中で、実習中は常にタイ語を使用し、業務の説明もタイ語でして頂いた。結果的に、目標は達

成されたと感じる。もちろん、専門的な語彙も多く、全てを理解できたとは言わないが、随時辞書で調べたり、簡単な言葉に言い直してもらったりして理解しようと努めた。また、会社には数人の日本語通訳の方が所属しており、会社での基本的な使用言語は、タイ語・日本語・英語で、毎日3か国語が飛び交っているという様子がとても印象的だった。通訳の方をずっと見ていて、通訳という仕事の魅力と大変さを実感した。そして、今回は日系企業ということで、日本のやり方があるながらも、労働法でも見たように、その国の独自の文化や人に合わせた会社の姿勢や規則などを目にする機会が何度かあり、海外で会社を立ち上げ、運営するには基本的理念に加え、その地域や人々に合わせた臨機応変な改革、改善が必要なのだと感じた。最後に、今回のインターンシップは、国内外含め初めてということもあり、知識もあまり無かったが、人事・総務の仕事を学習・体験させて頂いたことで基本的知識が身についた。

4. まとめ

この実習を通して、言語を生かした仕事や、その他これまで自分が考えていた職業の他にも、まだまだ様々な可能性や選択肢があるという事を感じた。言語に関して言えば、通訳も一時期視野に入れてはいたが、今の自分の語学力では無理だろうと感じていた。しかし、現地でタイ語を使っていて、言葉が伝わる楽しさややりがいを実感し、また社員の方に、タイ語を使わないのはもったいない、これからいくらでも可能性があるとお声かけ頂いたのもあり、今まで以上にタイ語を生かしたいという気持ちが大きくなった。実習を通して得た、人事・総務の基本知識や、定期的に開かれる社内会議の在り方、進め方、存在意義（改善・提案）なども今後社会に出た時に少なからず役に立つと考える。しかし、今回は2週間ほどの短い期間だったため、実践というよりは、知識を頭に入れることで精いっぱいだった。そこで、今後日本でもインターンシップに参加し、日本と海外の会社の違いを感じるとともに、更に社会に出るための経験・準備をしていきたい。

5. 謝 辞

先日のインターンシップでは大変お世話になり誠にありがとうございました。実習内容はもちろんの事、ホテルや移動手段の手配など細部までのお心遣い、心より感謝しております。お陰様で、大変充実したインターンシップになったと思っています。

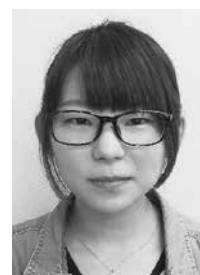
このインターンシップを通して、全く想像のつかなかった、働くということを考えることが出来、会社として常に確認や改善を追求する事の大切さや、基礎知識、また実習以外で、社員の方々とお話をする中でも沢山のものを得ることが出来ました

今回、お忙しい中ご丁寧なご指導をして下さった皆様に改めて感謝申し上げます。このインターンシップで得た経験や知識、言語などを今後の大学生活や就職活動に活かし、邁進してまいります。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

参考資料

・株式会社キャムホームページ <http://www.kkcam.co.jp/about/>（閲覧日2017年9月19日）

学部／学科：国際学部 国際文化学科 学年：3年 氏名：森下 楓
実習先：CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD.
実習期間：平成29年8月29日～9月8日



1. 実習先の概要

所在地：700/147, Moo1, Amata Nakorn Industrial Estate,
Tambol Ban Khao, Amphur Panthong, Chonburi Thailand
事業内容：精密プラスチック金型及び成形品の製造、販売
従業員数：約360名
設立日：2007年4月

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

8 / 28 (月)	到着
8 / 29 (火)	会社概要の説明、工場見学、製造工程の見学、部品の組立
8 / 30 (水)	部品の組立作業、ASSEMBLY の見学
8 / 31 (木)	MB CHARGE UNIT の製造過程の見学と組立
9 / 1 (金)	INJECTION、金型、QC・QA の見学、安全点検についての学習、 MB CHARGE 2000 の組立
9 / 4 (月)	組立作業、製造ラインの見学と実践、NG モデルの学習
9 / 5 (火)	マネージャーミーティングとマンスリーミーティングの見学、 MOTOR GEARED BLOCK モデルラインの見学と組立
9 / 6 (水)	自動車ヘッドライト駆動製品についての学習
9 / 7 (木)	梱包方法と WH へ持っていく過程を見学、プレゼン資料作成
9 / 8 (金)	プレゼンテーション

2.2 実習内容詳細

この会社には、人事・総務部、購買部、営業部、計画管理部、出荷部、INJECTION、ASSEMBLY、塗装部、TOOLING、エンジニアリング部門、QC 部などといった部署があり、私は主に ASSEMBLY という組み立て専門の部署でカメラや車の部品の組み立てについて学んだ。カメラや車の部品の各製造ラインを見学し、実際に組み立てを体験させて頂いた。品質検査のやり方や、製造する工程で出る NG モデルについても学び、品質管理を徹底していることが分かった。また、INJECTION、金型、QA・QC、WARE HOUSE などの他の部署の見学や、ミーティングにも参加させていただいた。

3. 実習の感想

今回のインターンシップが初めての海外渡航だったので海外に行くことの期待と不安の両方があったが、非常に多くのことを学ぶことができ、参加して本当によかったと思った。タイでは言語や生活面などの文化の違いに戸惑い、日本の便利さを改めて痛感することもあったが、タイの人はとても優しくタイがとても好きになった。私はタイ語が全く分からない状態で行ったが、通訳ができる方に通訳していただいたおかげで言語の面ではとても助かった。タイは英語が通じると思っていたのだが、実際はタイ語訛りの英語で発音も全然違うのであまり聞き取れなかったことと、私の日本語訛

りの英語もあまり通じなかったことが特に大変だった。通訳さんが居ない時には、通訳さんがいてくれないとこんな簡単な言葉ですら分かってもらうのに苦労するのかなと思い、言語面での苦労を味わうことになった。それでも、会社のミーティングでは英語で話しているタイ人もいて、海外で働くならやはり英語を話せるスキルは重要なのだと実感し、英語の勉強をもっと頑張ろうと思うようになった。

私はものづくりが好きで製造業に興味があったため、今回のインターンシップでは ASSEMBLY という組み立ての部署で色々学ばせていただいた。私たちが普段使っているカメラなどの部品が、どこで誰によってどのように作られているのかを詳しく見ることでとても良い経験になった。組み立てもいくつか経験させて頂き、私は手先が器用であることに自信があったのだが、実際にやってみるとなかなかうまくいかず、スピードも遅かった。見ていると簡単そうに見えるのだが、実際はかなりの技術とスピードと集中力が要求されることがわかった。全ての人が自分の専門分野に長けていて、とても輝いて見えた。

4. 実習を通して学んだこと

今回のインターンシップでは、海外で働くことのやりがいや大変さ、製造業について、工場での流れ、社会人としてのマナーといった仕事の面からタイの言語や文化に至るまで、非常に多くのことを学ぶことができた。最初は会社の中で日本語とタイ語と英語が飛び交う状況にとっても衝撃を受けたし、会議では、日本語ができるタイ人の社員さんの通訳を通して日本人とタイ人の社員の方が話し合っているところを見て、海外での意思疎通の大変さを実感した。また、停電や通勤での渋滞も経験し、海外で働く人にしか分からない苦労も経験することができた。それでも、タイ人はとても優しくて明るい方が多いし、海外で働くことのやりがいは大きいと思った。

ASSEMBLY では組み立てから検査、梱包までを学ぶことができた。従業員の方たちの組み立ての速さに圧倒されつつ、確認を確認を重ねているところを見て、品質管理を徹底していることが伺えた。また、私の希望で他の部署も見学させて頂き、INJECTION、金型、QC・QA で詳しく機械の説明もしていただいた。企業での各部署の繋がりや、生産から出荷までの流れを知ることができた。会議にも参加し、各部署が成果や問題点を発表して改善案を出し合っていたのを見て会議の重要性を感じた。

5. まとめ

私がこのインターンシップに参加した目的は、海外で働くということを経験するためと興味を持っている製造業について知るためであった。2週間という短い期間ではあったがとても沢山のことを学ぶことができたし、語学力や積極性といった自分に足りないものにも気づくことができた。私はまだ自分がやりたい仕事は何なのか具体的に決められていないが、仕事に対する視野が広がる良い機会であった。自分にできることは何かをよく考えて、このインターンシップでの経験を今後の大学生活や就職活動に活かしていきたい。

6. 謝辞

お忙しい中インターン生として温かく受け入れて頂き、丁寧なご指導をしてくださった宮坂社長をはじめとする CAM PLAS の皆様、並びに国際インターンシップ事務室の先生方に心より感謝いたします。初めてのことばかりで、この2週間での経験全てが新鮮で、大変勉強になりました。この度は大変お世話になり、貴重な経験をさせて頂きまして本当にありがとうございました。



図1 組み立てている様子



図2 組み立てた部品

学部／学科：国際学部 国際社会学科 学年：3年 氏名：吉川 みゆき
実習先：Pacific Hotel & Spa
実習期間：平成29年8月28日～9月17日



1. 実習先の概要

所在地：ROAD NO.6, KAKSEKAM VILLAGE, SIEMREAP, CAMBODIA

2007年にオープンしたばかりの4つ星ホテル。シェムリアップ空港から5分という立地。毎日外国人観光客でにぎわっている。広々とした造りで、フィットネスセンターやプール設備もあり。24時間ルームサービス等のサービスも充実している。おすすめはスパマッサージ。

2. 実習内容

ゲストコミュニケーションという役職のもと、一階ロビーでの接客、事務作業が主な業務。その他ルームチェックも行った。

2.1 実習スケジュール

実習16日間全日午前シフト。8時に業務開始、17時に終了の9時間業務。昼食休憩は一時間まで。休日は週に1日、日曜日。

2.2 実習内容詳細

接客と事務作業が主であった。接客、ホテル職員とのコミュニケーションで使用する言語は主に英語。日本人のお客様とは日本語で会話をし、ホテルのサービスに問題がなかったかを確認したり、困っていることがあれば力になれないか話を聞いてみる。Wi-Fiにつなぐ設定の手助け、トゥクトゥクやタクシー運転手との交渉の手伝い、近所で買い物ができる場所、食事ができる場所等の案内、ホテル内の施設についての案内が主であった。英語が話せない方も多いので通訳をすることも多い。中国人、韓国人のお客様で英語が話せない方も多かったため、コミュニケーションが取れず苦労した。事務作業としては、その日の予約の確認、カードキーの用意、チェックイン、チェックアウトの手続きといった内容。掃除済みの部屋にお客様が入る前の最終チェックも行った。空いた時間はロビーのソファのクッションを整えたり、ホテルからのギフト用のスカーフをカットして整えたりといった作業をしていた。

3. 実習の感想・学んだこと

一番印象に残っているのは、ホテルのスタッフたちの素敵な笑顔である。様々なサービスや気遣いに触れたが、目が合うたびにニコッと笑いかけてくれる優しさが一番のホスピタリティであったと私は感じた。お客様の気持ちはもちろんのこと、初日うまく英語が聞き取れず緊張していた私の気持ちもするするとほぐしてくれた。言語に関しては、初日と最終日を比較すると3週間でもかなり上達したように思う。毎日英語を聞き、話さざるを得ない環境に置かれることで、リスニングとスピーキングの能力は向上した実感がある。シェムリアップの人々は本当に皆フレンドリーで笑顔を絶やさず、いつもあいさつして話しかけてくれたおかげで、すぐに仲良くなり会話を楽しむことができた。おかげで私も、初対面の人にも自分からあいさつをし、おしゃべりを楽しむことができた。それを生かしてももちろんお客様とも積極的にコミュニケーションをとることができるようになっていき、大きな収穫が得られた。ホテルで行う事務作業等も初めて経験することができ、将来に生きる学びを得ることができた。

4. まとめ

実習中様々な人と出会い、その一人ひとりと交わした会話、過ごした時間のすべてが大変貴重なものであり、私の価値観や考え方に大きな影響を与えてくれた。ホテルの現地スタッフをはじめ、仲良くなった現地の友人や、シェムリアップに長年住まれている日本人スタッフの方から、本当に

深い思いやり、やさしさ、愛情をもらい、貴重なお話を聞くことができた。聞いた話の中で一番ショックだったのは、シムリアップで働く人々の所得の低さだ。毎日朝から夕方まで働いているにもかかわらず、彼らのお給料は私の1か月のバイト代よりはるかに低い。会社のトップや管理職とそうでない人たちの所得格差があまりにも大きいのである。毎日ホテルで丁寧に自分に仕事を教えてくれ、面倒を見てくれているスタッフたちの待遇の悪さに、カンボジアの構造的な問題をじかに感じた。しかしながら常に「お金がない」と言っているにもかかわらず、シムリアップの人々は本当に底なしに人にやさしいのである。私の自転車が壊れて困っていた時には、親しいスタッフから話したことのない人まで10人以上の人が駆けつけてくれ、どうにか直そうと一生懸命考えてくれ、帰りはどうするのか、足がないなら自分が送るよと何人もが気遣ってくれた。仕事の後や休日には食事や観光に誘ってくれ、「みゆきはせっかく来ているんだから払わなくていいよ」と私の分まで払おうとしてくれる。バイクで観光に連れ出してくれた友人にガソリン代の心配をしても、そんなこと気にしないでよ!とにこにこしている。こんなに所得が低く贅沢などあまりできない生活の中で、なぜ彼らは突然来た日本人の私にこんなにも良くしてくれるのだろうか、自分のことを顧みずなぜこんなに人にやさしくできるのだろうか、という思いがずっと頭から離れなかった。さらに勉強熱心な人も多かった。ある友人は、普通の大学と中国語ガイドの2つの大学に通いながら、学費のために仕事もしていた。これが私をバイクで観光へ連れて行ってくれた彼であるが、休める時間はほとんどない。勉強熱心で、人にやさしい彼のこの話を聞いて、涙が出た。貧しいこととお金持ちであること、人にやさしくできること、自分のことしか考えられないこと、勉強したくても貧しくてそれができない人がいること、これまでも授業で何度も何度も耳にしたことではあるが、シムリアップに来て、友達ができて、これを本当に心から感じ、考えた。具体的に自分はこれから何の仕事に就きたいのかまではまだわからないが、今回の実習を通じて感じたこと、考えたことは私のこれからの人生に大きな影響を与えていくことは間違いない。自分の努力次第で何不自由なくやりたいことがやれる、勉強したいことを思う存分学べる環境にいる私にこれから何ができるのか、何がしたいかについて考える、本当に良い機会となった。かかわってくれたすべての人に心から感謝しています。

5. 謝 辞

Dear Pacific Hotel & Spa

Thank you for all and I had precious experience in Pacific Hotel, Siem Reap. Everyday, the staff taught me many things carefully. I could learn good hospitality and I love your smile the best.

Everyone in the hotel is always smiling and very friendly, so I could be relaxed and also smiley. I was moved from your kindness during my stay. The time I spent with you was priceless and never forget every person who I met in Siem Reap.

All of you gave me a big effect and change the way of my thinking. You changed my life. This internship became a good chance for me to think about my future.

I don't know about my future, but I'm sure that I will come back Siem Reap again because I love there and I love people. Thank you for all of your warm heart and I really enjoyed my stay. I miss you so much. Again, you gave me an important chance and I'm a so lucky girl to see you!

I want to say heartily thank you for everyone.

With appreciation and big love,
Yoshikawa Miyuki



学部／学科：工学研究科 物質環境化学専攻 学年：1年 氏名：澤口 巧太
実習先：Nikko Chemicals (Singapore) Pte.Ltd
実習期間：平成29年9月4日～9月15日



1. 実習の概要

所在地：シンガポール南西部にあるジュロン島

事業内容：化粧品、トイレタリー、食品、インキなどの分野向け原料の製造・販売および輸入・輸出

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

8:00 体操	12:00 昼食	6:30 退社
8:05 午前の業務	12:30 午後の業務	

2.2 実習内容詳細

(1) 日光ケミカルズシンガポール、ニッコールグループについての説明

日光ケミカルズシンガポールでは、原料に高級アルコール類やヒマシ油、ヒマシ硬化油などを用いて酸化エチレン (EO) の付加反応により界面活性剤を製造している。工場として2015年にはISO9001を取得し、高品質な製品を提供するための管理の徹底。また、ユダヤ教のKosherやイスラム教のHalalを導入することで、様々な宗教、あるいは民族のニーズに対応できる企業としての強みも説明していただいた。

(2) 工場で生産された製品の品質分析

全プロセスが終了した製品は、ドラム缶充填の前に研究所において詳細な分析が行われる。実習では製品の色、pH、水酸基価(OHV)についての分析を行った。どの操作においても繊細であり、精密に分析が行われていた。全ての項目で適正値が得られたサンプルのみ製品として提供可能である。製品としての品質を保証するためにも、分析工程はとても重要な作業であると感じた。

(3) 工場での生産現場見学および実習

工場では2シフト制がとられ、業務開始時にその日の作業内容の確認、15時には進捗状況を確認するミーティングが行われていた。プロセスはほとんどオート化されており、常に進行状況をモニタリングする人を1人配置していた。その人が現場にいる3人に指示を出し、無線で連絡を取り合いながら作業をする形をとっていた。現場には反応槽や貯蔵槽などのタンクがあり、それらは全て配管でつながっており、原料の移動や槽内の圧力を制御可能であった。常に危険と隣り合わせでの作業のため、一つ工程を進めるごとに無線で連絡を取り合い、確認作業を確実に行っていった。ISOタンクから原料を輸送する工程も見ることができた。実際に行った作業としては、製品を充填したドラム缶のラッピングやバキュームポンプのオイル交換など安全に行える作業をさせて頂いた。

(4) 営業についての説明

営業の方にお話を聞く機会を頂いた。自分は今まで営業の重要さをあまり認識していなかったが、営業があることで製品を売ることができ会社が成り立っていることが分かった。営業は製品を売り出すという役割を担うため、自社の製品の強みを把握し、それを資料にまとめ顧客にアピールをしなければいけない。そのためとても多くの能力が必要であると感じた。

(5) Vitafoods asia 2017 の参加

シンガポールで開催された展示会に参加させていただいた。そこでは多数の企業が出展しており、実際に想像できる食以外にも、薬のカプセルやサプリメントなどフードの幅広さを知った。そこでは各

企業でISOやHalalを推しており、自社の強みをアピールし顧客獲得につなげるという試みが見られた。

(6) パイロットプラントの実習

パイロットプラントを実際に動かし実験をさせて頂いた。原料をはかりとり記録しながら作業を進め、精密に実験を行った。温度や圧力、EOの流入速度に常に注意しながら調整をした。ラボスケールとはいえ危険な実験のため、多段階の確認作業をへて実験が進み、普段自分が行っている実験と比べてとても緊張感のある実験であった。



図1 パイロットプラントでの実験



図2 反応槽

3. 実習の感想・学んだこと

今回初めてインターンシップに参加させていただき、大変密度の濃い10日間を過ごすことができたと思う。実習中は主に現場の作業をさせていただき、製品ができるプロセスを一通り理解できたと感じている。現場での作業は危険と隣り合わせのため、一つ一つの行動に責任をもち常に緊張感のある中で作業することは、とても精神力の必要な仕事だと感じた。そこで働く彼らに皆が協力して作業を進める大切さを教えていただいた。現場以外にも、研究所での分析やパイロットプラントの実験、営業についてなど多くの事を学ぶことができた。製品製造に関わる全ての工程は、品質に影響するためとても精密に行われることで、品質を保証していることを知った。自分は今まで営業の重要性をあまり認識していなかったが、営業があることで製品を売ることができ会社が成り立っていることが分かった。企業で行われている業務内容を幅広く把握し、それを売り出すことで顧客を獲得する営業は忙しく大変であると共に、それをこなしていくやりがいも大きいのではないかと感じた。

実際の現場での作業はほとんどが英語の説明であった。初めの数日は英語を聞き取り理解することに必死で質問をほとんどできなかったが、作業内容を理解するにつれて徐々に質問をすることができた。このようにプラントに関する専門的な内容を、英語で教わるのができたのは非常に良い経験であった。将来的に海外勤務を見据えて仕事をしたいと考えているため、英語で実習をできたことは実際に海外で働くイメージを具体的にできたと感じている。

4. まとめ

私は将来海外で働きたいという思いがありインターンシップに応募した。私は研究職に就きたいと考えているが、工場の現場や研究所、営業についてなど全体的に企業について学べることができ非常に有意義な時間を過ごせたと感じている。生活面では、最初は言語の違いや食、生活文化に対応できるかといった不安もあったが、それらはすべて払拭できたと思う。私の拙い英語でも現地の方々には理解しようと耳を傾けてくれ、説明する際もわかりやすい英語で話してくれた。現地の方々には日本人には無い社交性を持ち合わせており、すぐに打ち解けることができた。

10日間という短い期間ではあったが、毎日が新鮮で刺激のある充実した日々を送ることができた。実際に海外で実習をしてみて、海外での生活や働くといったハードルは以前思っていたよりも低く感じた。様々な国の方と接し、異文化に触れることで自分の視野が広がっていくことを実感した。大学では学ぶことのできない経験をさせて頂き貴重な時間を過ごすことができた。今後、この実習で得た経験を大学院での研究生活や就職活動に役立てていきたい。

5. 謝辞

インターンシップの参加にあたり、ご多忙の中、丁寧にご指導くださいました日光ケミカルズシンガポールの皆様、並びにインターンシップの準備に際してお世話になりました日本サーファクタント工業株式会社の皆様、宇都宮大学職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

学部／学科：工学研究科 物質環境化学専攻 学年：1年 氏名：助川 雄太
 実習先：NIKKO CHEMICAL SINGAPORE PTE.,LTD
 実習期間：平成 29 年 9 月 4 日～ 9 月 15 日



1. 実習先の概要

所在地：シンガポール南西部のジュロン島

創立：2009 年

事業内容：近年日本の6つの会社からなる NIKKOL GROUP から起業した NIKKO CHEMICAL SINGAPORE は、Halal、Kosher 向けの商品を作ることなど、他の企業との商品の差別化を図る工夫を模索・実践しつつ、日本外、主にアジアでの市場拡大を目指す化学系企業である。化粧品、トイレタリー、食品、インキの工業用原料の開発・製造・販売及び輸入・輸出を主に行っている。

2. 実習概要

2.1 実習スケジュール

Table. 1 日程と実習内容のスケジュール

日 程	実習内容	
5:30 起床	9 / 4	Jurong Island パスの取得 安全と会社の説明 HR からの一般的会社説明 プラント見学 製品説明、応用・製造プロセス説明
6:10 出発		
7:50 会社到着		
8:00 体操		
8:05 午前の業務		
12:00 昼飯	9 / 5	化学分析実習
12:30 午後の業務	9 / 6 ~ 9 / 15	Product OJT R & D OJT (Pilot plant) Sales OJT Vitafoods Asia 2017 (exhibition tour)
16:30 退勤		
17:30 宿着		

2.2 実習内容詳細

(1) NIKKO CHEMICAL SINGAPORE、NIKKOL GROUP についての説明

NIKKOL GROUP という、NIKKO CHEMICAL をはじめとする7つの会社からなるグループが、どのような体系をとっているのか、1つ1つの会社はグループの中でどのような役割を持ち動いているかということ等を学んだ。またその中で NIKKO CHEMICAL SINGAPORE は、原料として高級アルコール類や、ヒマシ油から精製したヒマシ硬化油などを購入し、それらに酸化エチレンや酸化プロピレンを付加させ、界面活性剤を開発・製造している。そして、天然資源であるヒマシ油を用いた原料を使うことや、イスラム教の Halal、ユダヤ教の Kosher 向けの商品を作ることなどを積極的に行うことで差別化を図り、新たな市場獲得を目指している。どのように企業が他の企業との競争のため、差別化を図っているのかということ等を学べた。

(2) 工場見学及び説明

工場見学では、Product 部門の方に詳細な合成プロセスを各タンクやパイプの役割を説明を交えて案内して頂いた。界面活性剤を製造しているこの工場では、raw material storage vessel、raw material melting vessel、reaction vessel、treatment vessel などの各タンクと、酸化

エチレン (EO) を外部から供給するためのパイプ、酸化プロピレン (PO) の貯蔵タンク、塩などの固体物質を除くための濾過装置、有害ガスのための浄化塔、各容器のための冷却装置など、さまざまな装置を見せて頂いた。一つ一つが大きく工場ならではのスケールで圧倒された。また、酸化エチレン (EO) は大気圧下・常温で爆発する性質があるので、供給パイプの周りには冷却するための冷却ポンプと圧力制御するための圧力装置が取り付けられて、十分な安全管理がされていた。この例をはじめとして、工場の装置はスケールが大きく、危険性が思わぬところに潜んでいるので、安全管理に十分に重点を置き作業をしていることを学んだ。

(3) 化学分析実習

化学分析実習では、実際に工場で作成した試料の品質分析を行った。分析事項としては、色、pH、水酸基価 (OH) 等の分析を行った。実際に分析の仕事の際に使われている資料に沿って、各分析を行い、色の判別は目視で行い、pH、OHV は各種機器を用いて測定した。pH は合計 3 回、値が収束するまで丁寧に行い、OHV の測定は滴定値を一滴まで正確に行っていた。この分析過程は、工場での製造品がきちんと合成されているか、品質は出荷できるレベルまで達しているのかを確認する重要な作業で、この企業の顧客への信頼の生命線になっていると感じた。

(4) 各種 OJT の内容

・ Product OJT

主に工場での作業を実習することや、実際に作業員が日々こなしているスケジュールについて、作業員に付いて説明して頂いた。見学はできる限り近くでさせてもらい、タンクへの試料供給や、オペレーションルームと連携した各バルブの開閉、真空ポンプの on off など、現場でしか見られない貴重な光景を見ることができた。工場内の装置は全てスケールが大きく、工場そのものが危険な場所であり、その上危険な作業が多かったので、実習させて頂ける内容は限られていたが、出荷する商品入りドラム缶の梱包などを手伝わせて頂いた。どの体験も工場でしかできない貴重な経験だった。

Product 部門には数人のスタッフがいたのだが、毎日行われているミーティングにも参加させて頂いた。自分のイメージよりはるかに、一人一人スタッフの意思疎通が毎回行われており、工場をスタッフ全員で協力して動かす意識が見て取れたことも、貴重な現場を体験する機会だったと感じた。

・ R & D OJT (Pilot plant)

研究・開発部門の実習もさせて頂いた。この部門は普段、ラボスケールで新商品を開発する実験を行っているのだが、その商品が開発できた際、次の段階として、ラボスケールから大量生産をするためのプラントスケールへアップする必要がある。その過程として、一度に大幅にスケールアップしてしまえば、合成が失敗してしまった際に大きな損害と時間を浪費してしまう可能性がある。そこでパイロットプラントと呼ばれる、ラボから少しスケールアップした装置群を用いて、実験がなされる。そのパイロットプラントを用いて、実際に試料の合成をさせて頂いた。こちらも実際に研究員の方が使用している資料に沿って、実験を体験させて頂いた。細かく時間毎の作業を記録し、原料の投入から、リアクター容器内の温度・圧力設定、N₂・EO の供給など、一つ一つ手作業で行わねばならない。EO の供給時には、EO 濃度が一定の濃度を超えてしまうと爆発してしまう恐れがあるため、少しずつ長時間にわたって流量を増やさねばならない、根気のいる作業であった。しかし、自らパイロットプラントで実験でき

たことは、大規模実験での危険性がどんな場所に潜んでいるのか、どんな苦労があるのか体験・実感できた、貴重な経験であった。

・ Sales OJT

営業部門の方には、営業部門が普段どのような活動を行うのか、詳細に説明して頂けた。自分の持っていた営業の仕事の枠から離れた範囲の仕事も行っており、幅広い活動を行う部門である事を知れた。実際に顧客会って、時にはプレゼンテーションにより、自社の製品を明快かつ興味をそそるように説明する努力をする時もあり、時には顧客の要望を叶えるように寄り添い顧客と一緒に商品を開発していくこともある。また様々な顧客獲得のために、各地を転々とすることもある。

実際に顧客に商品を勧める様子も、私達に実践して下さった。どれもとても有意義な経験であった。

(5) Vitafoods Asia 2017 (exhibition tour)

企業同士がブースを出して交流の機会を設ける、栄養補助・機能性表示食品などの展示会にも参加させて頂けた。世界各地の多様で多くの企業が出展して、自社の商品について詳細に説明、実際に提供もしていた。製品の並ぶショーケースや試食できるバーなど様々なエリアも開設されており、企業同士の交流を促進する工夫がなされていて、実際に多くの会社員同士が意見を交わしていた。ブースを一通り見回ったのだが、どの企業も他の企業と差別化を何とかして図り、顧客獲得を目指す事や、企業同士のつながり広げて新たなビジネスにつなげていこうとする姿勢が見て取れた。学生の内に企業のみでのやり取りが行われている場所へ参加できたことは、とても新鮮で刺激的な体験だった。

3. 実習の感想・学んだこと

私はこの国際インターンシップに、実際の企業はどんなふうに日々活動しているのか知りたい、海外を体験してみたい、という2点を目的として志願した。前者に関しては、2週間という期間を会社の方々にお世話になる中で、共に過ごさせて頂き、たくさんの部門の方々に貴重な生の声を聞いたり、実際に実習を経て色々な体験を通して、今まで会社に対して抽象的なイメージしかなかったが、具体的な体型を感じ、知ることができたと思う。部門はどのように配置され、どのように仕事に分配されており、各部門はどのような仕事をしているのか、具体的に知ることができた。この経験は来年の就職活動で業界・企業・部門を選ぶ際にとっても参考になる経験だったと思われる。

自分は研究職を希望している。今回実際に研究職の方々の仕事や、その苦労、またアカデミックとの違いを学べた。実際の職場では学校の研究とは異なり、締め切りがあり、顧客のニーズに沿った研究が主である事など、それが一番の違いであることを知った。また、研究職は化学の知識を得ていくことだけでは、ニーズに合った商品を開発することはできず、周りの顧客の意見にも目を向け、現状どのようなニーズあるのかということにも目を向けなければならない。その上で開発を行い、ラボだけで生産だけではなく、大量生産やその時の危険性をも見越して商品を開発していかなければならず、目を向けなければいけない点は幅広く存在している。良く言えばやりがいがある、悪く言えば広い視点が必要で、苦労も絶えない職のように思える。その上で尚研究職を希望するのか、今後この経験を生かして、どの部門の仕事が本当に自分のしたいことなのか改めて考えていこうと思った。

また後者に関しては、日本人の割合が圧倒的に少ない環境に2週間いたことは、とても刺激的で新鮮な毎日を体験できたと感じた。会社の人々との会話も英語を使用しなければならない場面が多く、化学分析実習、Product OJT では英語のみで説明を受けた。英語に不慣れな私は、ゆっく

り説明してもらって聞き取るのがやっとだったが、会社の方々は優しく接してくれて、仕事のことも仕事のこと以外の色々な話もたくさん話してくれた。英語に対する苦手意識があったが、英語を話したいという気持ちが日々高まり、また一生忘れないかけがえのない経験をできたと感じた。

4. まとめ

ここまで長々と書いてしまったが、本当に色々な経験をさせて頂いたと、レポートを書いていると感じた。会社の概要説明から、各部門の説明・実習、展示会への参加など、本当に充実した刺激的な2週間を過ごせたと感じている。会社説明では、一つの会社がどのような体系を形成し、何をめざし動いているのか知ることができた。各部門を体験できたことは、仕事の違い、部門のつながり、生産現場と研究所の連携時の大変さを学ぶことができた。化学系の企業で学べたことで、実際に自分が今志望している業種についてのイメージや、大変さ、やりがいなども学ぶことができた。この2週間で学んだことはとても多く、学んだ知識も、シンガポールでの光景も、何気ない会話でさえも自分の今後の将来に少しでも影響を及ぼす経験ばかりだったように思う。今後、社会人になってからも役立つような話もたくさん聞くことができた。そして、化学の知識、細かな危険性を予測できる能力、英会話力、また物事への積極性など、これからの自分をもっと磨いていくべき多くの点が見えてきたように思えた。それらの点を日々見直すべき機会を与えてくれた、インターンシップ期間であったと思う。

5. 謝 辞

お忙しい中、2週間もの間、快く受け入れて下さった、清水工場長を始め NIKKO CHEMICAL SINGAPORE の方々には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。私達の生活のお世話から、仕事の時は丁寧に御指導、ご説明して頂き、仕事以外の時間でも、お食事などにも快く誘ってくださり、仕事もそれ以外のことでも、数えきれない貴重な経験をさせて頂きました。

またインターンシップの準備に際して真摯に協力して下さいました、日本サーファクタント工業の皆様、宇都宮大学職員の皆様、更にお世話になりましたたくさんの方々に厚く御礼申し上げます。

Thank you so much for everyone in the product department who has taught me various things. I will not forget to meet you. I pray for your health and for your future success.



Fig. 1 raw material storage vessel



Fig. 4 ドラム缶梱包の様子



Fig. 6 pilot plant



Fig. 2 アイスタンク開封の様子



Fig. 3 reactor vessel



Fig. 5 productの方々と食事

学部／学科：農学部 農業環境工学科 学年：3年 氏名：谷 有美子
 実習先：一般社団法人海外農業開発コンサルタンツ協会
 株式会社三祐コンサルタンツ
 実習期間：平成29年8月10日～8月26日



1. 実習先の概要

会社名：株式会社三祐コンサルタンツ
 実習先所在地：ミャンマー国（バゴー地域 ピー郡 他）
 事業名：バゴー地域西部灌漑農業収益向上プロジェクト（PROFIA）
 バゴー地域西部灌漑開発事業（BWID）

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

8月9日	移動（ヤンゴン～ピー）
8月10日	午前：BWID 案件概要ブリーフィング 午後：PROFIA ワークショップ
8月11日	South Nawin ダム掛かり施設の調査
8月14日	現地スタッフの管理農地引き継ぎのための視察
8月15日	GPS 測量
8月16日	ファームレコード進捗状況確認 種子増殖プロジェクトエリアの視察
8月17日	種子生産圃場検定見学
8月18日	水理組合の農業委員会見学
8月19日	South Nawin ダムの漏水量測定施設の確認・写真撮影 支線水路の流量測定
8月21日	流量測定データ整理、ローカルエンジニアの方への説明
8月22日	プレゼンテーション準備
8月23日	精米所と精米歩合試験見学
8月24日	プレゼンテーション準備
8月25日	プレゼンテーション準備・発表
8月26日	移動（ピー～ヤンゴン）
8月27日	帰国

2.2 実習内容詳細

バゴー地域西部灌漑開発事業（BWID）は、このプロジェクトの対象地域にある4つの灌漑システム（北ナウィン・南ナウィン・ウェジー・タウンニョ）の改修・機能向上を目的とする。一方、バゴー地域西部灌漑農業収益向上プロジェクト（PROFIA）の目的は、灌漑農業による民間企業活動を組み込んだ収益性の高い農業体系を構築することである。今回のインターンシップでは、この2つの事業を体験させていただいた。

具体的な活動は以下のとおりである。

- 1) バゴー地域西部灌漑開発事業（BWID）
 - ① South Nawin ダム掛かり施設の調査
 - ② GPS 測量

- ③ South Nawin ダムの漏水量測定施設の確認・写真撮影
 - ④水理組合の農業委員会見学（図 -1）
 - ⑤支線水路の流量測定（図 -2）
 - ⑥流量測定データ整理・ローカルエンジニアの方への説明
- 2) バゴー地域西部灌漑農業収益向上プロジェクト（PROFIA）
- ①ワークショップ
 - ②現地スタッフの管理農地引き継ぎのための視察
 - ③ファームレコード進捗状況確認（図 -3）
 - ④種子増殖プロジェクトエリアの視察
 - ⑤種子生産圃場検定見学
 - ⑥精米所と精米歩合試験見学



図1 農業委員会



図2 支線水路流量観測



図3 ファームレコード進捗状況調査

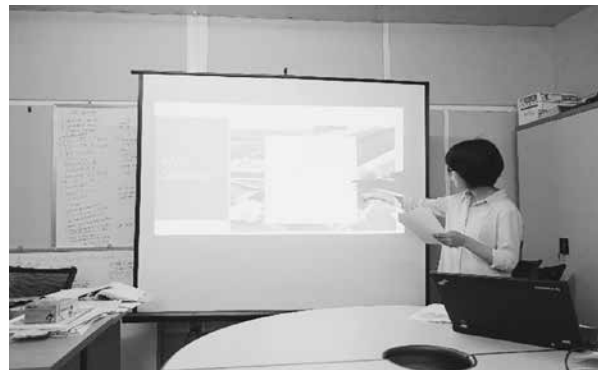


図4 最終日プレゼン発表

3. 実習の感想・学んだこと

ミャンマーでのインターンシップを通して、粘り強さの重要性を感じた。社員の方からうかがった話では、国際協力において、何でもかんでも協力者側で行って完結させてしまうと、早く進むし楽ではあるのだが、協力の対象者側は受け身の姿勢になってしまい、ただ与えられるのを待つのみになってしまうということだった。それでは本当の意味での国際協力とは言えないため、実習先の社員の皆様は、現地の方々の自主性を重んじ、日本人は必要なサポートや提案はしつつ、干渉しすぎないようにすることを心掛けていた。これはすべて日本人側で完結させるよりも時間がかかり、難しさも増すが、現地の人々の積極的な関与を促すことができ、その国のより良い発展を望める、理想的な国際協力の形の一つであると思った。粘り強く、現地の人々に寄り添って事業を成し遂げ

ることが大切なのだと学んだ。

加えて、どのような状況にも臨機応変に対応する柔軟性も必要であると知った。実習中いくつかの灌漑施設を見たが、その中には誤った位置に設置された量水標やその量水標の目盛りが違っていたり、ダムの漏水量の測定が正しく行われていなかったりと、日本ではありえないようなことがあり、少し戸惑った。しかし社員の方は、こういったことは海外ではよくあるとおっしゃっていた。このことから、海外で仕事をする際は、日本人として自分の持っている常識を世界での常識とは考えず、想定外のことが起きても冷静に状況に応じて対応していく力が重要であると思った。

また、実習全体を通して、語学力の不足を感じた。スムーズに会話を進めることができない場面がしばしばあった。そのことについて社員の方に少し相談したところ、最終日に英語でプレゼンテーションを行うことを提案していただいた。これは自分にとってとてもいい英語学習の機会となった。発表はとても緊張したが、貴重な経験ができたと思う。

4. まとめ

インターンシップに参加する前は、ただ漠然と海外で仕事をしたいと考えていただけで、そのために具体的に何をすればいいか、何が必要なかを明確にすることができなかった。とりあえず英語をある程度マスターして、海外で仕事をしている会社に就職できればいいかという程度にしか考えていなかった。

しかし今回実際に海外での仕事を初めて体験してみて、こういった考えではその希望を叶えることは難しいのではないかと感じた。そして、自分には何が足りないのか、これからどういったことをしていくべきなのか、以前よりも具体性を持って考えることができるようになった。インターンシップの活動はもちろん、ご飯を食べているときや移動の車の中で社員の皆様やローカルスタッフの方々とお話したことも、今までの自分の甘い考えを改めるきっかけとなった。尊敬する方々と一緒に事業に関われたことは、大変良い勉強になった。今後は、この経験を踏まえて、自分自身の進路についてもっとよく考えていこうと思う。さらに、活動を通して見つけることができた自分の課題点について、真摯に向き合い、身を引き締めて向上していきたい。

また、このインターンシップを通して、海外で仕事をする大変さと、面白さを知ることができた。日本人としての「当たり前」や常識がほとんど通用しない環境で仕事することは、日本国内での仕事とは違う難しさがあるが、同時に大変刺激的で、やりがいがあるとも感じた。

この約3週間の中で、多くのことを学んだ。この経験を無駄にしまわぬように、今後の自分のために生かしていく。

5. 謝 辞

この度は、お忙しいなか私をインターンシップ生として受け入れてくださり誠にありがとうございました。約3週間の間、初めてのことで戸惑うことが多かったですが、皆様が温かく接してくださったおかげで、多くのことを学び、素晴らしい経験をさせていただくことができました。この経験を忘れずに、自身のさらなる向上に努めてまいります。

本インターンシップに関しまして実習先でお世話になりました蛭田様をはじめとする三祐コンサルタンツ社員の皆様、ローカルスタッフの皆様、そして渡航前からサポートしてくださった花村様、並びに社員の皆様に心から感謝いたします。

学部／学科：教育学部 教科文系 学年：1年 氏名：鎌田 達磨
 実習先：ワシントン D. C 周辺の大学・大学院、外資系企業、団体及び
 国際機関 等



実習期間：平成 29 年 8 月 27 日～ 9 月 17 日

1. 実習先の概要

ワシントン D.C 周辺の大学や諸国際機関、NPO、等々を訪問し、意見交換を通し世界に通用する視点、視座を作り上げる。またボランティア活動等を通じて日本では体験出来ない人種、文化の多様性に触れる。

2. 実習内容

2 週間もしくは 3 週間という限られた時間の中で英語のスキルアップをする。様々な機関を訪問し国際社会の大舞台で活躍している方々と意見交換をし、コネクション作りをすること。また次世代を担うであろう人達と実際に会いお互いに刺激を与え合う。

2.1 実習内容詳細

3 週間の大きなスケジュールを下記に示す。

	午前中	午後	夜
1 日目(日)	成田⇒ワシントン D.C	ホステル到着	
2 日目(月)	語学塾 (LADO) で placement test (クラス分けテスト)	ジョージメイソン大学訪問	Martha's Table にてボランティア活動
3 日目(火)	LADO で授業	ジョージワシントン大学訪問	
4 日目(水)	LADO で授業	ジョージワシントン大学クラス聴講	
5 日目(木)	LADO で授業	IMF (国際通貨基金) 訪問	アメリカン大学の学生と交流
6 日目(金)	Water Park にてボランティア活動	ジョージタウン大学訪問	NY に向けてパッキング、バスで移動
7 日目(土)	休日 (NY 観光)		
8 日目(日)			
9 日目(月)			
10 日目(火)	LADO で授業	在日米国大使館訪問	D.C Kitchen にてボランティア活動
11 日目(水)	LADO で授業	Atras Corps 訪問	
12 日目(木)	LADO で授業	笹川財団訪問	D.C Kitchen にてボランティア活動
13 日目(金)	JICA 訪問	アジア開発銀行訪問	2 週間組の人達の送別会
14 日目(土)	2 週間組の人達の見送り	ワシントン D.C 観光	

15 日目(日)			
16 日目(月)	LADO で授業	現地在住の日本人の方と会う	世界銀行訪問
17 日目(火)	LADO で授業	日米協会訪問	
18 日目(水)	Willson Center での Conference 参加		現地在住の日本人の方と食事会
19 日目(木)	LADO で授業	YFU 訪問	
20 日目(金)	米国議会図書館訪問	茶の湯体験	日米協会にてプログラム総括
21 日目(土)	ワシントン D. C ⇒成田空港		

原則として午前中に英語塾、午後に機関訪問という形をとった。最初の週は主に大学訪問、2週目と3週目は機関訪問を行った。1週目の目玉は首都三大学の訪問とIMFの訪問であった。首都三大学はGWU(ジョージワシントン大学)、GTU(ジョージタウン大学)、AU(アメリカン大学)の3つだ。これらの大学は国際的なこと、政治的なことに強く卒業生には数々の有名人を出している。そこで出会える方々は皆、頭脳明晰で、意識も高く実際に会うのと会わないでは将来に対する考え方がまるで変わってくる。ただ漠然と夢を追いかけるのではなく自ら主体的に動いて夢を叶えようと思えるようになった。2週目は機関訪問を中心に行った。国際機関やNPOで働いている方と直接やり取りできるのは非常に貴重な経験となった。ホームページだけでは伝えきれないことや実際に話を聞いてみないと分からないこと、自分の実になる話ばかりであった。3週日も機関訪問や日米を繋ぐ団体を主に訪問した。日米を繋ぐ協会や団体がたくさんあり実際に向こうに行ってからその企業や団体を知ること多かった。この3週間で多くのことを知り気づくことが出来た。また休日は基本的に自由行動で偶然実習中に祝日を迎えたため最初の連休ではニューヨークに行くことができた。休日がきちんと確保されていて観光地を訪れたり出来るのもこのインターンの良いところの1つだと思う。

3. 実習の感想

アメリカに実習に行く前と後では語学に対する考え方、モチベーションが劇的に変わった。よく現地に行くときどれだけ英語が話せないか実感する、と往々にして言われるが今回それがよく分かった。観光で海外に行き、たどたどしい英語とボディランゲージを使って相手とコミュニケーションをしたりするのは全く違い、英語が話せないと置いて行かれる、蚊帳の外に居るような感覚に陥る、そんな体験が出来た。英語の重要性が高まり続けている現代に於いて最高峰の高度な英語を聞くことが出来て本当に良かった。また普段の生活では確実に会えない国際機関に勤めていらっしゃる方や現地に住む日本人の方や留学中の大学生の方とも会い、お話をする機会がありそこでも日本の学生の足りないところや置いて行かれているところなどを認識することが出来た。このインターンを通し将来のビジョンをより明確にし、その為にやらなければいけないことをする良いモチベーションアップにも繋がると思う。

4. まとめ

このインターンを通して将来に対する自分の考えの甘さを痛感し、将来の夢や目標をもっと明確

化しようと思った。海外に留学している学生は皆、将来やりたいこと、やらなければいけないことを明確な意思として持っていた。ただ漠然と、教師になりたいと思っていた自分はそういった人達を見て感化された。と、同時に自分の甘さやいかに怠けているかとも思い知らされた。この大学生活をどう過ごすかによって今後の人生左右されると本当に感じた。以前そのままただらと過ごすのか、将来に対するビジョンを持って意欲的に活動するか、どちらを選ぶべきか自ずと分かった。このインターンでの経験は教師になってからはもちろんのことプライベートや日常生活でも活かせると思う。

5. 謝 辞

綿貫さん、大学1年生の内から貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございます。高校生の頃からずっと海外に行きたいと思っていましたが、どの留学に参加しようか迷っていました。そして迷った結果このインターンシップに参加しました。このインターンに参加する前と後では自分の意識、将来に対する考え方が明らかに変わりました。このインターンに参加出来て良かったと一生思えます。本当にありがとうございました。



図1 IMF（国際通貨基金）にての様子



図2 1週目の研修を終えた後の会食の様子



図3 世界銀行での集合写真



図4 Atlas Corps での様子